



浦安市文化振興ビジョン

平成18年3月

文化振興ビジョンの策定にあたって



戦後、焦土の中から立ち上がった我が国は、昭和30年を過ぎた頃から高度経済成長時代を迎え、経済大国といわれる繁栄を築き上げました。

急速な発展の一方で公害問題も顕在化し本市もその影響を受け、旧江戸川上流の製紙工場から流出する悪水のため、長い間生活を支えてきた漁業を放棄せざるを得ず、海面埋立て事業による街づくりの方針を打ち出しました。

その後首都圏の複合機能都市として目覚ましい発展をとげてきた本市は、東京に隣接する地理的な条件と、海面埋立てによる行政面積の拡大という恵まれた条件を生かして計画的なまちづくりを進めて来ました。しかし、その一方では、漁師町の名残をとどめる風景があり、綿々と続いている昔からの習俗も数多く残っています。

これらの風景や風俗・習慣は本市の長い歴史の中で祖先から継承され育まれてきたものであり、多くの先人先輩たちが郷土浦安を愛し、努力してきた一つの証として見ることができます。

目覚ましい住宅開発によって、日本全国はもとより海外からの転入者が移り住んでいる本市では、人生観や価値観の異なった多様な人々が生活しているまちであるといえます。また、時代の潮流は「もの」から「こころ」へ、「スピード」より「ゆとり」へ、「刺激」より「癒し」へと変化しています。

浦安市は基本構想において、「人が輝き躍動するまち・浦安」を標榜しており、市民の文化の向上が基本構想の理念であると認識しています。

この文化振興ビジョンの作成にあたっては、アンケート調査や策定懇話会の開催、さらにパブリックコメントの実施などを通じて、さまざまな形で市民の皆さんの意見を伺い、ビジョンの中に生かしてまいりました。

このビジョンは、今後の浦安市の文化振興を図るための基本となる指針です。しかし、文化の振興は一朝一夕に築かれるものではありません。時間はかかると思いますが、市民と行政がそれぞれの役割と責任を果しながら、お互いに協働してこの文化振興ビジョンのテーマである「市民の生きた文化活動が地域全体に広がり市民一人ひとりが幸せや、生きる喜びを感じる文化的なまち」を築き、光り輝く品格ある浦安をつくりあげていきたいと考えています。

平成18年3月

浦安市長 松崎秀樹

目次

第1章

浦安市文化振興ビジョンの基本的な考え方	1
1. 文化振興ビジョン策定の趣旨	3
2. 文化を取り巻く社会状況の変化	4
3. まちづくりにおける文化振興ビジョンの位置付け	7

第2章

文化振興における浦安市の現状	9
1. 浦安市の持つ文化的特徴	11
2. 文化振興に対する市民の意見	16
3. 文化的視点からみた課題	19

第3章

ビジョンにおける浦安市の将来像と基本的方向	23
1. ビジョンが目指す市民文化のすがた	25
2. ビジョンの基本的方向	25
3. ビジョンの5つの目標	26
4. 体系図	29

第4章

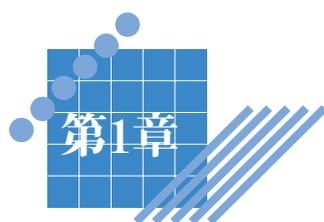
5つの目標と施策の方向	31
目標 1 多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます	33
目標 2 生活の中で「地域の文化」を育みます	37
目標 3 文化の整備・保存・継承を図ります	41
目標 4 「浦安らしさ」をつくり出します	45
目標 5 芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します	49

第5章

文化振興ビジョンを進めるために	53
-----------------	----

付属資料	59
------	----

浦安市文化振興ビジョン策定懇話会設置要綱	61
浦安市文化振興ビジョン策定懇話会意見書	63
浦安市文化振興ビジョン策定懇話会会議開催状況	78
浦安市文化振興ビジョン策定懇話会委員名簿	78
用語解説	79



第1章

浦安市文化振興ビジョンの基本的な考え方

1. 文化振興ビジョン策定の趣旨

戦後わが国は、戦災復興から高度経済成長を経て、目覚ましい発展を続けました。その結果、世界有数の経済大国になり、私たちの生活も経済的に大変豊かになりました。

しかし、経済成長を追い求めた結果、失ったものも少なくありませんでした。豊かな自然環境は破壊され、身近にあった歴史的環境も大きく姿を変えてしまいました。その反省から、物質的に豊かになった日常生活の中に、精神的な豊かさを取り戻すことが大切であると考えられ始めました。環境保全に対する意識が高まり、自分自身の人生や生活を楽しもうとするなど、「ものの豊かさ」から「心の豊かさ」を求めるように価値観が変化してきました。

こうした中で「心の豊かさ」を実現するものの一つとして「文化」が注目されています。

人々の暮らしに余裕が生じ、多様化して自分自身の生活を重視すると、「文化」は人生に豊かさをもたらす重要な要素になっていることがわかります。

本市は、市域の4分の3が海面の埋立事業により計画的に整備されたことから、市民は日本全国から集まって来た人々で構成されています。

また、外国籍の市民の占める割合も非常に高くなっており、人生観や価値観の異なった多様な人々が住んでいるまちとも言えると思います。

こうした多様な社会では、異なる価値観をお互いに認め合い、お互いを尊重していく態度や、お互いの違いを話し合うことによって調整していくことが必要になっていきます。

浦安市には現在15万人以上の人が住んでいます。浦安で働く人、浦安で学ぶ人を加えると、もっと多くの人々が浦安のまちと関わりを持ちながら生活しています。

その全ての人々が幸せを実感し、生きる喜びを感じるまちこそが「文化的なまち」だと考えます。

「文化」といえば「芸術文化」、「歴史文化」といった内容が思い出されますが、この「文化振興ビジョン」では、合わせて「生活文化」を取り扱いたいと思います。「生活文化」は極めて地域性が高いので、地域のオリジナルな文化や地域特性として、生活やまちに密着した文化のあり方を考えていくことが必要です。

文化と生活、文化とまちの関係を考察し、浦安市におけるこれからの文化のあり方を考えていくのが、この文化振興ビジョンなのです。

2. 文化を取り巻く社会状況の変化

「豊かさ」の追求

これまで豊かな生活に必要とされていたものが変化しています。「量」よりも「質」、「スピード」よりも「ゆとり」、「刺激」よりも「癒し」が求められるようになり、価値観は多様化し、新しい価値観も生まれています。利便性や合理性よりも、心の豊かさやゆとりに価値を認める人々の比率はますます高まっています。

特に、寿命の伸長による余暇時間の拡大から、豊かな時間の過ごしかたに対する関心は、壮年層を中心に高まっています。「お金」より「時間」という考え方から、「お金持ち」より「時持ち」という言葉も生まれました。

また、「健康」、「環境」を重視し、ゆったり豊かに過ごすことを表す「スローライフ」、「LOHAS」などの新しい言葉も生まれています。

成熟社会に向かって、一人ひとりが自分の価値観にあった「豊かさ」を追求する時代になっています。

自然との調和

地球規模で環境汚染や環境破壊が深刻化するなか、自然はかけがえのないものとして再認識されるようになり、環境保全や自然保護に重きが置かれています。

また、自然を保護するだけでなく、自然環境を壊すことなく生活の中にうまく自然を取り入れ、人と自然の調和したまちづくりが求められています。

豊かな自然や優れた景観は、魅力的な居住の場の条件の一つとなり、まち全体の魅力を高め、多様で多彩な人材をひきつけています。

これからの地域社会のあり方は、効率性や合理性を追求するだけでなく、人の活動と自然が調和し、地域全体が質的に向上することを目指す段階に入っていると言えます。

人と人の交流

多様な文化の交流から、「多文化共生」の時代が到来しています。経済社会のグローバル化や交通手段、情報の発達により、人々は多種多様な文化と接する機会が増え、これらに関心を持つようになりました。自分の持っていた価値観と異なる文化に触れることで、これまでの画一的な価値観から、多くの価値観を受け入れ、認めるようになってきています。

多文化共生社会においては、自然と人との調和を考えたり、他国の文化を理解したりするなど、自己を中心にしたものの考え方から、他を尊重し共に生きようとする姿勢を養うことが求められています。

生活の中にある文化

新たな価値観が生まれるなかで、自分の時間を豊かに過ごすことについて、多くの人が考えるようになりました。これまでの仕事中心の生活から、自分の時間、家庭、地域に目を向け始めている人々は、そこで生きがいを見つけ、自己実現を図ろうとしています。

身近な生活の中に潤いや美しさ、心地よさを求めるようになり、文化的な考え方や活動が注目されています。今日では、文化的な考え方は、これまでの芸術文化や伝統文化といった領域から、地域づくりや景観づくり、都市整備など幅広い分野に取り入れられるようになっています。

企業においても、これまでの利益を生む産業活動だけでなく、企業の社会的責任（CSR）を果たす活動が、再び注目されています。企業の活動は、自然環境保全だけでなく、福祉活動、芸術活動支援、国際交流など、幅広い分野でみられ、それらの活動状況は、企業に対する評価の一つの基準となりつつあります。

市民参加と連帯

高齢化が進み、人口が減少し始めた現在において、人口が増加し需要が拡大していくことを前提とした従来のまちづくりのスタイルが通用しなくなっています。

また、地方分権は一層進展していくと考えられ、これまでの均一化した事業展開から、それぞれの地域の特性に応じた事業展開へ移行させることが重要となっています。このため、「地域でできることは地域で行う」という住民自治の仕組みや、さらに、政策形成・決定過程や実施、評価に市民の参加を進める仕組みづくりが始まっています。

「個性を尊重し、多様性を受け入れる」という考え方が広まっているなか、「個性」を尊重しながらどのように地域市民が連帯していくのか、「新しい連帯のありかた」が模索されています。

(1) 基本構想での位置付け

本市は、平成11年に策定された総合計画における基本構想で、『市民生活の安全性の確保を基本に、市民の価値観の多様化や少子・高齢化など時代潮流等の変化に的確に対応し、市民が潤いを感じられ、安心して暮らせるゆとりある地域社会の形成をめざします。また、自然と調和する快適な住環境や活気とにぎわいのある都心性、魅力あるレジャー性など質の高いさまざまな都市機能の調和を図り、それらのなかで、誰もが、生き生きと活動し、ふれあい、文化をつくりだすことのできる、そして、個人が能力と創造性を十分に発揮することのできる、躍動感あふれた「個性」と「活力」のある都市の形成を目指します。』という考えに立ち、まちづくりの基本目標を『人が輝き躍動するまち・浦安』と定めています。

また、まちづくりの基本目標を実現するため、長期的視点に立ち5つの都市像を設定し、その1つとして『創造と交流で築く市民文化都市』を掲げています。

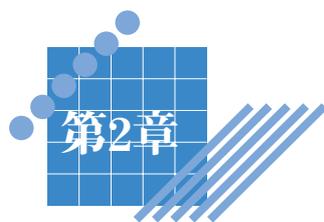
『文化振興ビジョン』は、この総合計画のもと、まちづくりの基本目標である『人が輝き躍動するまち・浦安』を踏まえ、市民一人ひとりが幸せを実感し、生きる喜びを感じる「文化的なまち」にするために、長期的な展望にたって本市の文化振興についての総合的な計画を策定していくものです。

(2) 目標年次

文化振興ビジョンは、文化振興の方向性を示すもので、これに沿って具体的な文化振興施策を進めていきます。

文化は、長い年月をかけて創造され、醸成されるものです。ビジョンに盛り込まれた考え方や施策の方向性については、「浦安市総合計画」の基本構想の目標年次である2020年（平成32年）に区切ることなく、より長期的な視点で推進していきます。

また、他の分野の行政計画とも連携を図り、時代の変化や新たな課題に柔軟に対応しながら取り組んでいきます。



第2章

文化振興における浦安市の現状

(1) 多様な文化が共生するまち

「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」（平成16年度）によると、浦安に来る前の居住地は「東京都」が最も高くなっています。次いで「他の道府県」となっており、「生まれたときから浦安」は8.5%と、1割弱にとどまっています。約9割の市民は、市外から転入してきています。

また、外国人登録者数も年々増加しています。平成16年3月では3,386人に達しており、その出身国も多様です。

このように、浦安市はさまざまな地域文化を持った人々によって構成されており、「多様な文化が共生するまち」と言えます。

図1 以前の居住地
(単数回答 n=1295)

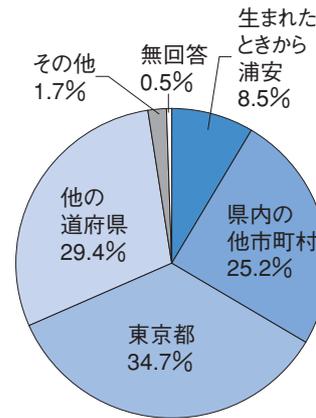
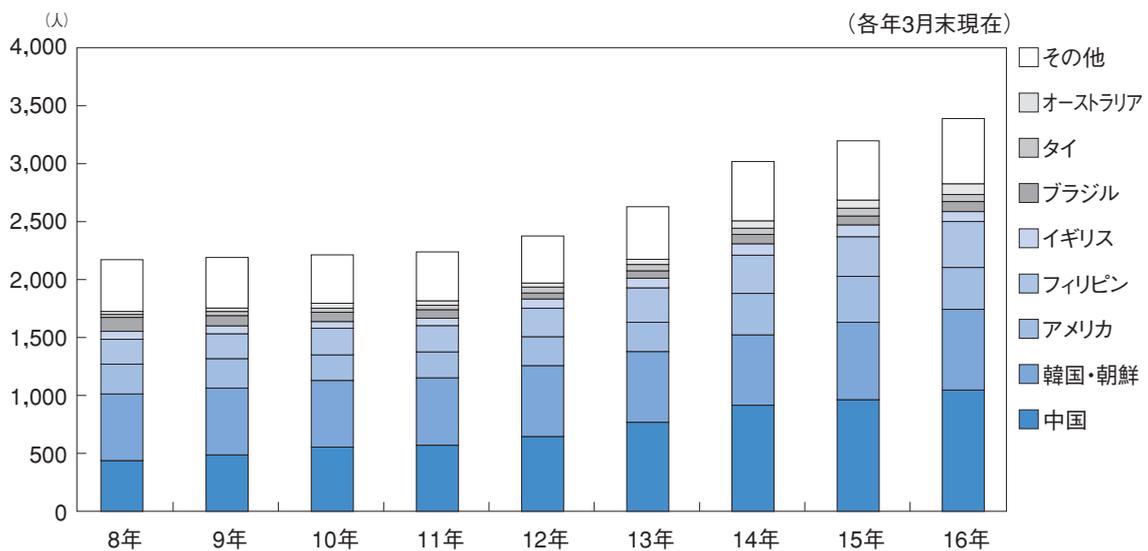


図2 外国人登録者数推移



(出典：浦安市統計書)

(2) 浦安市は「住みたいまち」

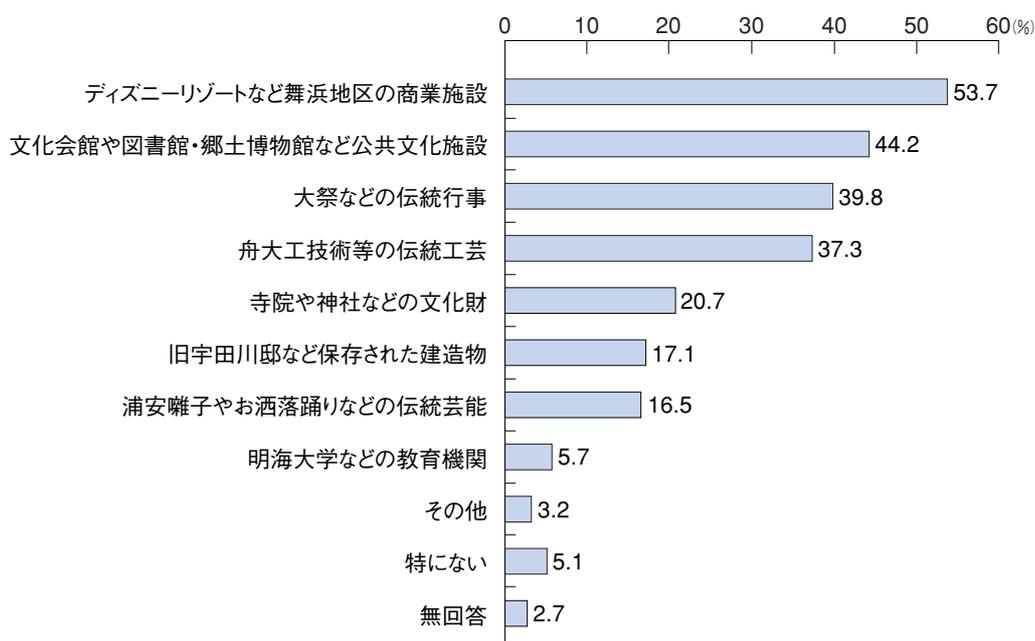
「住みよさランキング」（資料：都市データパック2005年 東洋経済新報社）で、浦安市は全国 8 位に位置しています。都心まで電車で十数分という立地でありながら、海辺のリゾート感覚にあふれ、埋め立てによって整備された地域では、整然とした街並みのなかに緑が配置されています。

東京ディズニーリゾートの存在も、リゾート的な雰囲気を高めています。

「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」でも、「誇りに思う文化資源」として「ディズニーリゾートなど舞浜地区の商業施設」をあげる人が最も多くなっています。東京ディズニーリゾートは、浦安を訪れる人の増加だけでなく、浦安に住みたいと思う人も増加させています。

また、公共文化施設や大祭などの伝統行事をあげる人も多く、リゾート的な雰囲気に加え、充実した文化施設や伝統行事など、多様な文化資源を持ったまちであると言えます。

図3 誇りに思う文化資源
(複数回答 n=1295)



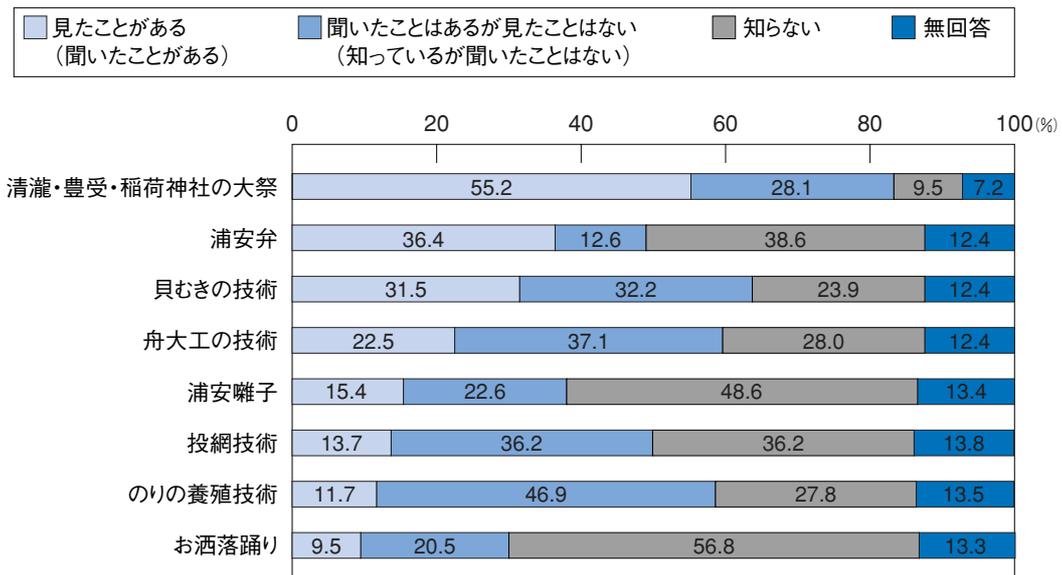
(3) 歴史・伝統と新しさが共存するまち

埋め立てによりできた新しい地域は、市域全体の4分の3を占め、近代的で整然とした街並みに整備されています。

一方で、浦安固有の歴史や文化を育んできた地域では、昔の面影を残す建造物が現在でも残されています。かつて漁業が盛んであった時代に行われていた貝むき、のりの養殖、船大工など、海や川と関わりの深い文化は浦安文化の特徴であり、これらは郷土博物館で行われている体験活動などによって、多くの児童・生徒に伝えられています。「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」では、伝統行事である4年に一度開催される「大祭」が、伝統文化の中で最も認知度が高くなっており、多くの市民に「浦安の伝統文化」として認識されています。

このように、浦安は、新しい地域と歴史のある地域が共存しているまちと言えます。

図4 伝統文化の認知度
(単数回答 n=1295)

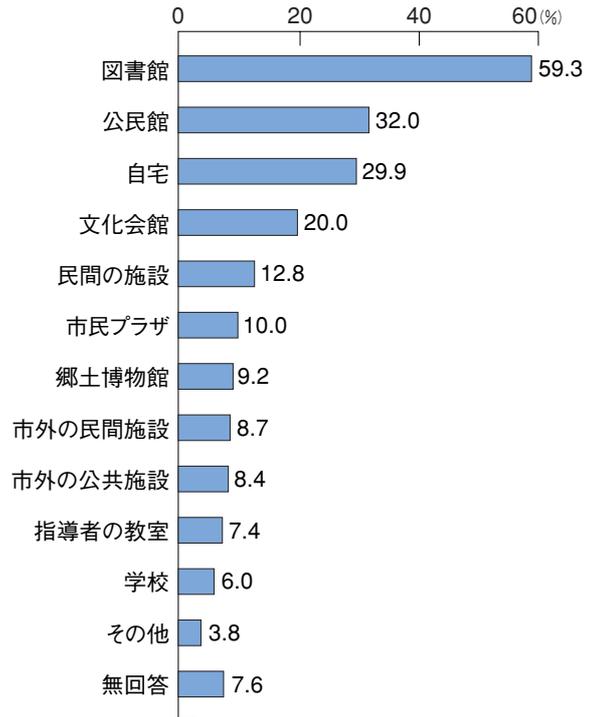


(4) 知的欲求の高い市民

図書館は、多くの市民に利用されているだけでなく、その充実度は全国に有名です。市民1人あたりの貸出冊数も大変多く、全国でトップクラスに位置しており、浦安市の公共文化施設の中心的存在となっています。

「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」でも、「趣味や学習活動で利用している施設」として、「図書館」をあげる人が最も多く6割となっています。利用者の多さは、市民の知的欲求の高さを表しているとも言え、図書館はその欲求に応える場となっています。

図5 趣味や学習活動で利用している施設
(複数回答 n=1295)

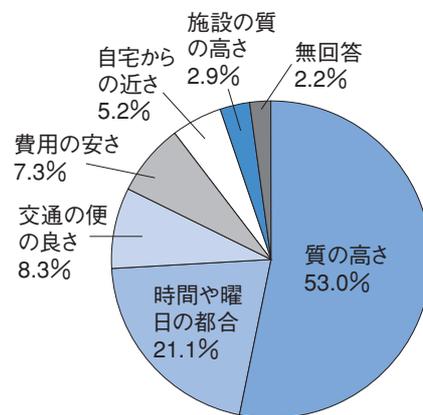


(5) 文化に対する高い意識

「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」では、「芸術文化を鑑賞する際に重要視すること」として、半数以上が「質の高さ」をあげています。

また、「文化的なまちづくりに必要なこと」では、「子どもたちが地域の伝統文化や優れた芸術に触れ

図6 芸術文化の鑑賞で重要視すること
(単数回答 n=1295)

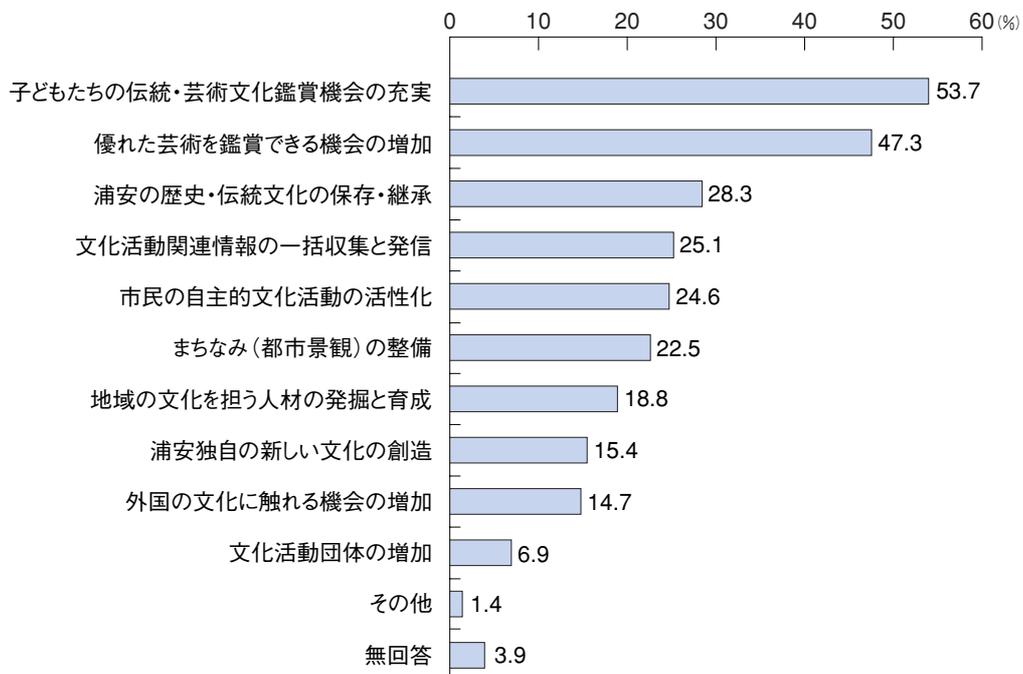


る機会を増やすこと」が最も高い割合となっており、質の高い芸術文化に触れる機会を子どもたちに与えたいと考える市民が多数を占めていると推測されます。

芸術文化に対する質の高さの要求は、浦安市における芸術文化活動の更なる充実が求められていることを表していると言えます。

また、次代を担う子どもたちへ、伝統文化や芸術文化に触れる機会の増加を望むことから、市民は文化振興を「未来への投資」と捉えていることがわかります。

図7 文化的なまちづくりに必要なこと
(複数回答 n=1295)



2. 文化振興に対する市民の意見

文化振興ビジョンの策定に際し、市民の意見をビジョンに反映させるため、「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」や「浦安市文化振興ビジョン策定懇話会」、「パブリックコメント」を行いました。

これら市民参加の機会でも出された意見を整理すると、以下のようになります。

(1) 市民参加による新しい文化の創造

昔から浦安に住んでいる人より、他の地域から移り住んできた人の多くなった浦安において、「浦安の新しい文化の創造」が必要だと言う意見が多く見られます。これまで育まれてきた浦安の文化を大切にしながら、移り住んできた人々の持つさまざまな文化を積極的に受け入れ、新しい文化を生み出していくことが、浦安の文化振興の大きな可能性と言えるでしょう。

しかし、新しい文化に対するイメージはいまだ明確ではなく、浦安の新しい文化とは何かを模索していかなければなりません。「市民全体で考える場を提供してほしい」という意見もみられます。

また、「ホームページを利用した文化に関する常設意見箱を設置し、市民の提案を常時受け付けられるようにする」といった具体的提案もされています。

(2) 文化活動に関する情報提供

移り住んできた市民の多くは都内に通勤しており、夜と週末を浦安で過ごすことが多くなっています。文化振興ビジョン策定アンケート調査での文化活動を行う上での障害として、“時間に余裕がない”のほか、“きっかけがない”、“経費がかかる”、“情報が少ない”などが上位になっています。

「市内で行われている文化活動に参加したくとも、時間が合わず、情報も少ないので参加しづらい」という意見が多く見られます。「浦安の歴史を知ることのできる郷土資料や文化財に関するマップを作ってほしい」、「さまざまな演目を行っている文化会館の情報がほしい」といった具体的提案も寄せられています。

また、「ひとり暮らしの市民の方や、高齢者の方にも情報が行きわたるように、分かりやすく、手に入れやすい情報提供の方法を工夫する必要がある」との意見もありました。

(3) 浦安らしさの発見

新しい文化の創造と併せて、「浦安の歴史や伝統文化を大切にしてほしい」と言う意見も多く見られます。「浦安百景や散歩マップを作り、浦安らしさを見つける」、「大祭の神輿ルートを新浦安方面にも広げ、浦安古来の祭りを広める」といった具体的提案もありました。

「東京ディズニーリゾートは浦安を象徴している」という意見も多く、「そのイメージを活かすことが浦安らしさにつながる」との意見もみられます。

また、浦安は海と共存してきたまちであることから、「海をきれいにして、水辺を楽しむことのできるスペースを作る」、「川を活かした街並み整備を進め、来訪者に文化的イメージを与えるようにする」という、水辺を活用する意見もありました。

(4) 住民どうしの交流

浦安市は市域の4分の3が埋め立て事業で整備されたため、さまざまな文化を持つ人が、全国から集まってできたまちであることが特徴です。そのため、初めは知らない人どうしても次第に地域に溶け込んでいけるようなきっかけを、意識的に作っていくことが必要となっています。

「新しい住民にとって、第二の故郷として愛着が持てるような施策が必要」、「地域の隔たりをなくし、市民が一体となる文化振興をしてほしい」など、文化活動を通して住民どうしの交流を図っていくことが大切だという意見が多くありました。

(5) 既存施設の有効活用

全国的に有名な図書館をはじめ、文化会館、市民プラザ、公民館、郷土博物館など、市内には多くの公共文化施設がありますが、利用時間の延長についての要望が多く寄せられています。「休館日をなくして、いつでも利用できるようにしてほしい」、「仕事があっても文化活動に参加できるように、時間や曜日を工夫してほしい」など、働いている人からの意見も多くなっています。

「利用の少ない施設は、もったいないのでもっと活用してほしい」、「新しい施設は不要であり、各施設のコストも削減して効率的に使ってほしい」など、現在ある施設を有効に活用すべきと言う意見も寄せられています。

また、「施設の利用料を安くしてほしい」、「文化会館での催し物の入場料を手頃な値段にしてほしい」といった、費用に関する意見もありました。

市民の日常の生活に密着した、創造的な文化振興を進めるためには、市民文化活動の現状や文化振興に対するニーズ、時代の変化を捉えた施策の展開が必要です。

浦安市の特徴や「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」の市民の意見、社会動向などから、文化振興ビジョンを策定する上での課題を以下のように整理します。

(1) 地域の文化活動の活性化

「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」によると、生まれたときから浦安に住んでいる市民は1割弱で、約9割の市民は市外から転入してきています。市民の勤務地も市外の場合が多く、地域で過ごす時間の少ないことから、地域活動に関心を持つ機会も少ない状況にあります。

また、住んでいる地域によって地域活動の状況もさまざまで、特に、転入して間もない方々は、地域との接点が少ない傾向にあります。

浦安では公民館活動が活発で、公民館は最も利用されている文化施設の一つとなっています。公民館での活動の輪が広がり、地域を越えた文化活動による交流につながるように、さらに拡充させていく必要があります。

また、市民が中心となって行っている地域のイベントなどに誰もが参加できるようなきっかけづくりを行い、継続した活動となるよう支援することが必要です。

(2) 浦安の生活文化と新しい文化の共存

浦安市民の多くは、他の地域から転入して新たに市民となった人々で、浦安に生まれ育ち、浦安に伝わる生活文化を知る人は、今では少数となっています。

そのような人々が活躍できる場を充実させて、浦安に伝わる生活文化を多くの市民に紹介し、認識してもらうことが必要と考えます。失われつつある地域文化を発掘、再発見し、後世に伝えていかななくてはなりません。

また、新浦安駅周辺など、計画的に整備された地域の街並みは、多くの人に支持されています。そこには新しく市民となった人々がたくさん住んでおり、新しい市民による新しい文化の創造が求められています。

浦安で生まれ育った子どもたちのために、浦安に伝わる文化と、新たに生まれる文化の両方をうまく共存させた「ふるさとづくり」を進めていく必要があります。

(3) 歴史文化の保存継承

漁業で栄えた浦安にとって、水との関わりは大変深く、かつての中心地であった元町地域の文化は「川の文化」とも言えます。

しかし、昔の浦安を知る人々の多くは高齢になり、生活文化である貝むきや投網の技術の継承、浦安弁の保存が求められています。新しく浦安に移り住んできた方々に、浦安で育まれた生活文化を知ってもらうことも必要です。

海や川は、まちを災害から守るための堤防や護岸整備により、現在では身近な存在ではなくなってしまいました。境川周辺は、昔の姿を失いつつあると言えるでしょう。

主に、元町地域周辺に残されている歴史的価値のあるものの保存も、個人の努力では限界になってきています。老朽化などによる建物の建て替えも進み、歴史を感じさせる風情は失われつつあります。元町地域の昔の風情や、浦安の歴史を感じさせるものを保存することが必要です。

(4) 浦安らしさの創出

浦安市には、漁業が盛んだった時代に中心地であった元町地域と、その後埋め立てによって拡大し、都内のベッドタウンとして発展してきた地域があります。いわば、古い文化と多様で新しい文化の、二つの要素をあわせもっているまちであり、どちらの文化も浦安の魅力となっています。

そうした多様な文化を活かして、新しい浦安らしい文化を創造することが、これからの文化を考えるときに、とても重要になっていきます。

また、市民の持つ多様な文化に触れたり、それを表現したりする場が少なく、市民文化の形成に十分に活かされていません。多くの外国籍の市民が住んでいますが、外国の文化を紹介する場も不足しています。東京ディズニーリゾートもあり、国際的なイメージが先行していますが、異文化交流や東京ディズニーリゾートを市民文化の形成の中でどのように位置付けていくのか、考えて行く必要があります。

また、浦安に住むことを選んだ市民が、「住みたいまち」から「豊かに暮らせるまち」と感じることができるよう、市民の望む文化振興を進め、浦安らしさを特徴付けていく必要があります。

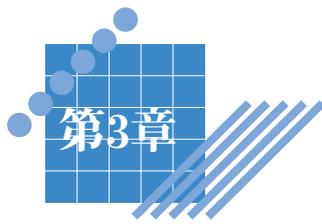
(5) 芸術文化を身近に感じる機会の充実

浦安市は、国内外の多様な文化が紹介される東京都に近いこと、芸術文化に触れる機会に恵まれていると言えます。

しかし、市内で身近に芸術文化を鑑賞したり、芸術文化活動を行ったりする機会は十分とは言えず、特に、都心に出かける機会の比較的少ない高齢者や子どもたちに対する、文化活動の機会の充実が求められています。

また、鑑賞する機会の充実だけでなく、新しい文化の創造に向けて、実際に文化活動を行う場を充実させることも必要です。芸術文化活動が日常生活の一部となり、豊かな地域活動へと発展させていくことが求められています。

市内の公共文化施設の活用状況もさまざまです。「浦安市文化振興ビジョン策定アンケート調査」では、図書館や公民館は多くの市民に利用されていますが、認知度の低い施設もみられることから、今後、施設の利用促進について検討していく必要があると考えられます。



第3章

ビジョンにおける浦安市の将来像と基本的方向

多様な文化を理解したり、優れた文化に触れたりすることは、人々の持つ多様な価値観を認め合い、互いの感性を高めあうことに通じます。

豊かな文化を持っている市民とは、人に対して優しい気持ちになれる市民です。

また、自分のまちを愛し、「心のふるさと」と感じることができる市民です。文化の振興から「感動」と「思いやり」が生まれます。

文化振興ビジョンでは、「市民の生きた文化活動が地域全体に広がり、市民一人ひとりが幸せや生きる喜びを感じる文化的なまちのすがた」を、目指す市民文化のすがたとして考えます。

2. ビジョンの基本的方向

自分自身の生活を重視するこれからの時代は、「生活文化」が人生に豊かさをもたらす重要な要素になると考えています。日常生活の中から文化は生まれ育ちます。

また、浦安の歴史や生活の中で受け継いだ文化を知ることが文化振興には重要です。

地域の人々の生き方、暮らしの中から生まれ、人々の暮らしの中に息づく身近な文化を見つめ直し、生活やまちに密着した文化を大切にすることを文化振興ビジョンの基本的な方向とします。

また、「生活やまちに密着した文化を育むこと」を基調に、身近な文化の掘り起こしや再発見、浦安独自の文化の創造、文化を多くの人に広めることを基本方針とします。

3. ビジョンの5つの目標

文化振興ビジョンでは、以下の5つを文化振興の目標として位置付け、文化振興を行います。

目標1. <日常の文化>

多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます

浦安には、全国各地、さらに全世界から多くの人に移り住んできました。このような人たちが身近な文化活動に参加することから、地域や年齢などを越えたコミュニケーションが生まれます。文化活動から生まれたコミュニティは文化振興の基礎になります。

人は、さまざまな文化に接し、優れた芸術を楽しむことによって、文化に対する多様な価値観を認め合い、お互いの感性を高めあうことができます。

また、文化は、人と人がふれあい、交流することで生まれ、洗練されていき、その中で更なる新しい文化が芽生えてきます。

さまざまな文化の交流は、人々の心と暮らしを豊かにし、新しい仲間との交流は、地域のコミュニティの輪を広げることにつながると考えます。

目標2. <地域の文化>

生活の中で「地域の文化」を育みます

かつての浦安は、漁業を主体としながら、農業も営まれ、半農半漁で生活を支えてきました。そのころの中心地であった元町地域には、土地に根付いた文化の薫りや歴史の面影があります。浦安弁や貝むき、のりすきなどの技術、アサリ、のりなどを用いた食文化など、失われつつある地域文化を発掘し、理解を深めていくことが必要です。

一方で、浦安市民は日本全国から集まってきています。外国籍の市民の占める割合も非常に高く、人生観や価値観の異なった多様な人々が住んでいるまちと言えます。

さまざまな文化や習慣を持った人々の異なる価値観をお互いに認め合い、尊重し合いながら、新たな融合文化の創造を図っていきます。

目標3. <歴史文化>

文化の整備・保存・継承を図ります

元町地域は、昔の浦安を知る人が多く住んでいます。

しかし、その多くは高齢になり、貝むきや投網などの技術の継承、浦安弁の保存が課題となっています。かつての浦安の文化が生まれ育まれた境川沿いは、その風情を残すことが元町文化の保存に重要な意味を持っています。浦安の歴史文化を大切にし、現在まで継承されてきた地域の文化を整備・保存するとともに、後世に継承するための方策を図っていきます。

目標4. <これからの文化>

「浦安らしさ」をつくり出します

浦安市は都心に近く、通勤にも便利なことから、全国から多くの人に移り住みました。ディズニーリゾートの存在や図書館の利用が活発なこと、国際交流が活発なことなどが、浦安市の特徴と言えます。

新しく移り住んでこられた方々の持つ個性や文化を活かしながら、それらを融合した新しい文化の創造を図っていきます。

「浦安の個性」や「浦安らしさ」は、市民一人ひとりの浦安に暮らすこだわりや意欲によって創り出されるものと考えています。

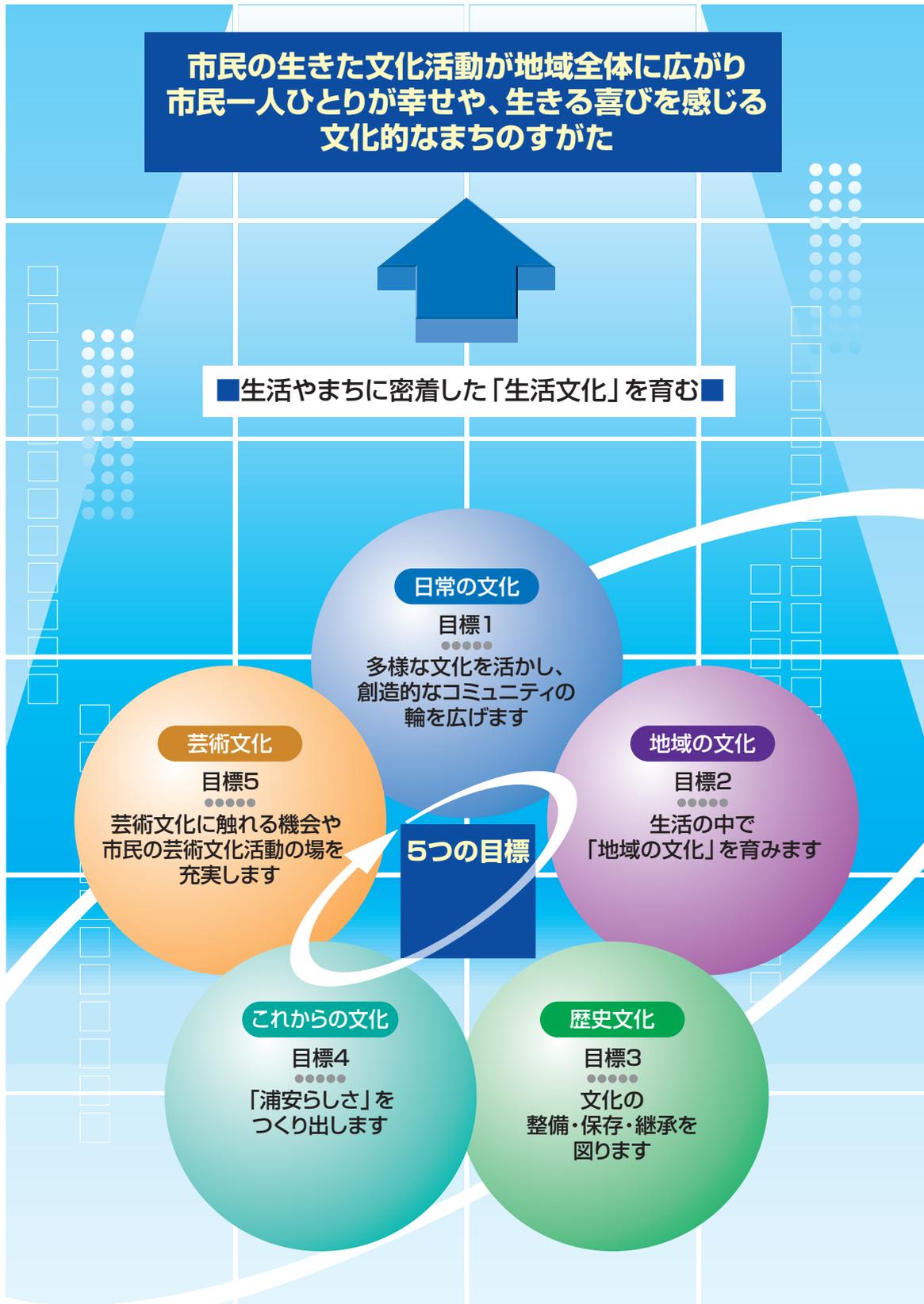
「どこで生活しても同じ」というのでは、まちや文化は画一的なものになってしまいます。浦安に暮らすこだわりを持ち続けていただくためにも、「浦安らしさとは何か」を再考していきます。

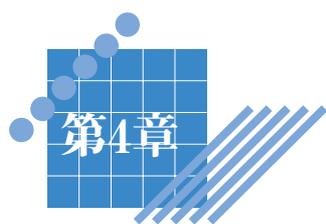
目標5. <芸術文化>

芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します

文化活動の基本となることは、まずその活動を楽しむことです。浦安市の充実した公共文化施設は、浦安の文化資源として市民に評価されています。市民の方々にとって、芸術文化活動が身近なものになるように、公共文化施設を活かして、鑑賞の機会や活動の場を拡充していきます。

特に、未来を担う子どもたちには、質の高い芸術文化に触れ、感動し、体験できる機会を充実させていきます。





5つの目標と施策の方向

目標 1

多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます

【日常の文化】

【基本的な考え方】

価値観は、人それぞれに違うものです。それと同じように、文化に対しても、その捉え方は多様となっています。

浦安市のように日本全国から集まってきた人々が生活しているようなまちでは、それぞれの市民が育ってきた環境も習慣ももちろん違うわけですから、この傾向は強いと思われれます。

しかし、そのような街であるからこそ、昔から住んでいる人にとっては新しく住むようになった人から受ける刺激もあるでしょうし、新しく住む人にとっては、昔からの歴史に触れて刺激を受けたいという面もあることと思います。

そのためには、新旧が交わって交流することが必要です。お互いに今まで知らなかったことを知る機会も増えることで、新しい文化が芽生えるきっかけになることも考えられます。

市では、これらの人達のコミュニケーションを促進するために、各自治会への支援などを積極的に行い、地域活動を推進する施策を進めてきました。また、各地区の公民館で行われているさまざまな文化活動への支援を行い、参加を促進してきた結果、市内の公民館では活発な活動が展開されています。しかし、新町地域では、地域で過ごす時間の少ない市民が多く、地域活動に関心を持つ機会も少ない状況にあります。特に、転入して間もない方々は、地域との接点が少ない傾向にあります。

新旧の市民が対等の関係で、新しい仲間との交流を図っていくことは、新しい文化やコミュニティを生み出すことにつながります。

多様な文化を持った市民が、身近な文化活動に参加していくことで、住む地域や年齢などの違いを超えたコミュニケーションが生まれてきます。文化活動から生まれたコミュニティは文化振興の基礎となるでしょう。多くの市民が、生活の中の身近な文化活動に気軽に参加でき、新しい仲間を作り、その輪を広げていくことは、文化振興をする上で重要な要素の一つと考えます。

地域の公共文化施設は、そのような地域住民の日常的な文化活動の場として、また、創造した文化の発信の場として重要な役割を持っています。

施設整備にあたっては、市域全体の施設配置のバランスや、地域の特性を踏まえて、適切に効果的に配置する必要があります。特に地域の公共文化施設においては、地域住民にとって身近な存在と感じられるような機能やサービスを提供することが求められています。

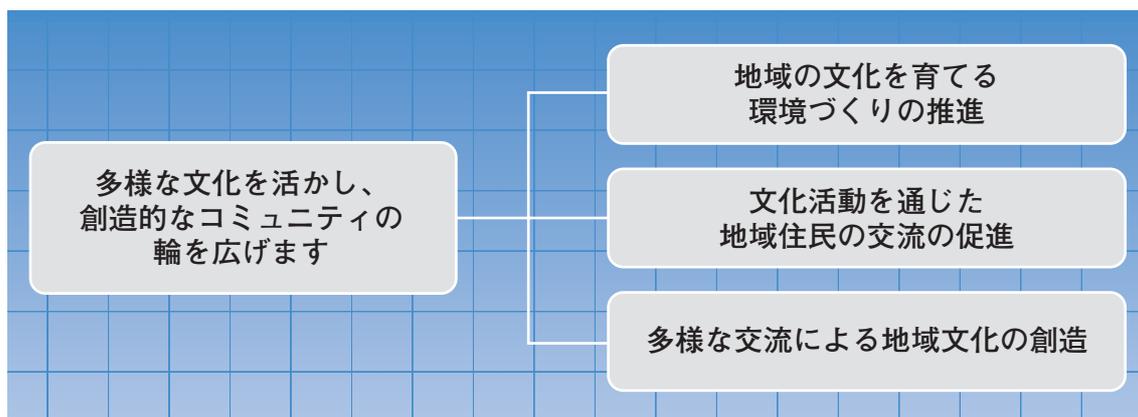
元町地域には大きなイベントとして4年に1度の大祭があります。また、新町地域では、新浦安駅を中心に新しいイベントが起こってきています。これらのイベントは市民が中心となった企画・運営がされており、市内外から毎年多くの人々が訪れます。

文化活動を通して、年齢や地域を超えて市民がつながることは、人の孤立を防ぎ、安心安全なまちづくりにもつながります。

【基本方針】

自分の住むまちを知り、周りの人々とつながりを持つきっかけとなる文化活動を促進し、文化を通じた市民の交流を活発にしていきます。

【施策の体系】



【施策の方向】

《地域の文化を育てる環境づくりの推進》

文化活動を、特別な活動として捉えるのではなく、日常的に文化活動を行うことのできる環境を整えるため、公民館や自治会集会所など、地域の文化活動の拠点となる施設整備を進め、活動の場を提供していきます。

また、活動の場の整備にあたっては、その企画の段階から市民参加に努め、地域住民のニーズを踏まえるとともに、地域の特性も考慮します。

施設の利用については、市民の自発性や主体性、創造性を高められるような施設機能を充実させるとともに、運営体制についても、柔軟な対応が可能になるように努めていきます。

施設の運営や、改修についても、利用者の意見を取り入れながら検討していきます。



《文化活動を通じた地域住民の交流の促進》

公民館活動への支援を拡充し、地域の文化活動を通じた、地域住民のコミュニケーションを促進していきます。

また、公民館同士の連携を強化して、各団体の交流を進めるとともに、公民館活動などから生まれたグループがきっかけとなり、浦安全体の文化を育む核となるよう、市民の文化活動の発展を支援していきます。

また、文化活動に気軽に参加できるような環境づくりに努め、きっかけづくりや、参加の呼びかけに取り組んでいきます。

地域の伝統芸能や伝承文化を学習し、継承していく人材づくりの場として、公民館を活用していきます。

《多様な交流による地域文化の創造》

地域の人々の連帯の場となり、地域文化を発信する場となる文化イベント等を、個性的なまちづくりや地域文化を支える人づくりにつながるものと位置付け促進していきます。

また、それらのイベントが地域住民により企画・運営され、市全体の活動へと発展するよう支援し、促進していきます。

文化イベントに関わる市民団体やボランティアについても、イベントの企画や運営への自主的な参加を促進していきます。

イベントの企画や運営、実施には、特に若い世代の参加を促進し、協働作業の機会の提供を通じて、世代を超えた交流を進めていきます。

また、このような機会を通じて、若い世代が活動の主体となることができるような仕組みづくりを検討していきます。



目標 2

生活の中で「地域の文化」を育みます

【地域の文化】

【基本的な考え方】

かつて浦安は、半農半漁のまちであり、日々の暮らしにその特徴がありました。

しかし埋め立てにより、漁業ができなくなってからは、漁業のまちとしての面は薄れ、地域の特徴も希薄なものになりつつあります。

「浦安には特段取り上げるような文化はない。」という人がいますが、それは本当でしょうか。

文化は、人が生活しているなかから生まれてきます。日々の生活の積み重ねが地域の文化となって根付き、今日に伝えられています。これらに、現在の新たな文化を重ね、次の世代へと継承することで、地域の文化が育まれていきます。

まず、「地域に根ざした文化は何か」を常に念頭に置きながら、自分の周りを見直して見る必要があります。

そして、私たちの生活の中で、「大切なものは何か」を考えていく必要があるでしょう。

また、大切なものは置いておくだけでは意味がありません。うまく活用する方法を考えていく必要があります。活用することによって、新たな文化を生み出すことができるのです。

浦安には、浦安固有の生活文化に触れることのできる郷土博物館という重要な施設があります。今では、日常なかなか目にするのでなくなっている貝むきやのりすき、投網の技術、漁師言葉としての浦安弁など、漁業で栄えていた頃の浦安の文化を感じることができます。

また、浦安には、生活に根付いた神社仏閣や史跡なども数多くあります。新しく住民になられた方々が、地域めぐりをする



ことによって、浦安の生活文化を知ってもらうことも必要です。新しく市民になった方々に対して浦安の生活文化を広く紹介し、関心を高めることは大切なことと認識しています。

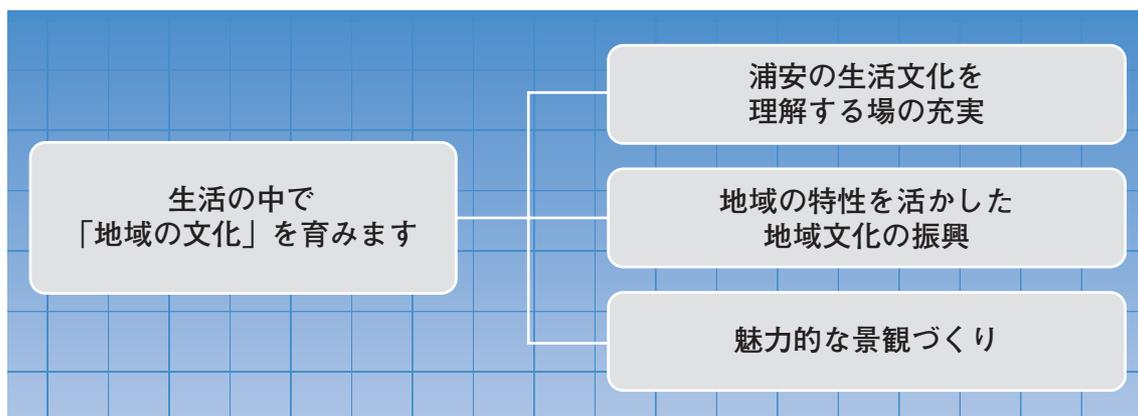
移り住んでこられた多くの市民の方は、埋め立てによって計画的に整備された新しい街に魅力を感じて、浦安を選んできています。新浦安駅周辺の新しい街並みは多くの人々を魅了しており、また多くの人から支持されていると言えます。

これに併せて落ち着いたある街並みとするには、街の緑化は欠かせないものです。緑に囲まれた整然とした街並みを整備することによって、街自体の文化的な価値が醸成されると考えています。人の心を和ませる街並みとなるように、都市マスタープランや緑の基本計画に基づいて緑化を推進し、浦安がふるさととなる子どもたちのために、緑あふれるまちにすることが大切と考えます。

【基本方針】

元町地域にある、昔からの文化の整備、保存、継承と、新町地域の新しい文化の促進を共に進め、地域の特性を活かした文化の育成を進めていきます。

【施策の体系】



【施策の方向】

《浦安の生活文化を理解する場の充実》

地域の生活に根ざして発展してきた祭り、年中行事、食文化などを積極的に紹介し、市民の関心を高めていきます。さらに、浦安の生活文化への理解が深まるように、学校や郷土博物館だけでなく公民館などにおいても、浦安の歴史や文化を学ぶ機会を積極的に提供していきます。公民館活動の内容に地域文化についての研究など、地域の文化に目を向けた内容を充実させるとともに、浦安の伝統文化を継承していく人材づくりの場となるような活動内容を検討していきます。

浦安固有の生活文化の継承においては、シニア世代の市民の豊かな知識と経験を生かし、その能力が発揮できるような仕組みづくりを進めるとともに、ボランティア活動の活性化に取り組んでいきます。

郷土博物館や旧宇田川家住宅、旧大塚家住宅などにおける事業については、文化団体や郷土歴史愛好家などと連携を図り、市民の意見を取り入れながら、展示内容や運営の充実を図っていきます。

郷土博物館においては、ワークショップなど体験型の事業の充実を図り、多くの市民が郷土博物館を訪れるきっかけづくりに取り組んでいきます。また、郷土博物館だけでなく、旧宇田川家住宅、旧大塚家住宅などからも、浦安の伝統芸能や生活文化を発信し、浦安固有の文化を保存・継承する場として充実を図っていきます。

《地域の特性を活かした地域文化の振興》

新町地域など、新しく市民になった方々が多く住んでいる地域においては、新しい市民の方が中心となって行われている文化活動を支援し、新しい文化の創造を促進していきます。

また、元町地域などにみられる、長い間続いている地域独自の活動や、文化資源を活用した文化活動についても支援し、地域の賑わいの創出を促進していきます。

《魅力的な景観づくり》

文化資源として、河川、海、海岸、公園なども広く捉え、それらを活かした個性

的なまちづくりを推進していきます。地域の景観づくりにおいては、地域住民の意向を尊重しながら、主体的な取り組みを積極的に支援していきます。

地域住民の憩いの場、交流の場として親しまれている公園や緑道などにおいては、地域住民の意向を取り入れながら、都市マスタープランに基づき、行政と協働で計画づくりや再整備を推進していきます。

また、緑の基本計画に基づいて公園や緑道、街路樹などを整備・配置し、まち全体の緑化を推進していきます。

緑の維持管理の方法については、公共空間で緑化に取り組む市民活動を支援するとともに、公園の里親制度の導入など、市民と共に取り組む緑化を推進していきます。

景観形成においては、浦安市景観マスタープランに基づき、景観に対する市民意識の啓発に取り組むとともに、景観行政団体にふさわしい景観計画の検討・策定に取り組んでいきます。

浦安の街並みに対する市民の関心を高めるために、浦安写真展など市民が浦安の景観を見つめ直すことのできる場を検討し、美しい景観形成に対する意識の高揚を図っていきます。

また、景観形成に対する市民の関心を高めるため、住民参加の環境美化活動や維持管理活動を推進し、環境美化に関する啓発活動を促進していきます。

河川、海岸の整備などにおいては、国や県など関係機関との調整を行いながら、治水や水質浄化などの環境整備と併せて景観の形成にも配慮し、市民が水に親しむことのできる空間の創出に努めていきます。

道路や公園等の身近な公共空間においては、ユニバーサルデザインを取り入れるだけでなく、周辺との景観の調和やデザインにも配慮して、整備を進めていきます。



目標 3

文化の整備・保存・継承を図ります

【歴史文化】

【基本的な考え方】

浦安は、川や海によって三方を水に囲まれたまちです。かつて漁業の盛んであったまちである浦安にとって、水との関わりは大変深いものがあります。

特に昔の中心地であった元町地域は、境川を中心として形成され、元町文化は「川の文化」とも言うことができます。

一つの地域に文化的なまちづくりを創造することも必要と考えます。浦安の歴史を感じさせる建造物を大切にし、そこに新たな資源を創造していくという考え方です。

市内にはさまざまな文化的な資源があり、旧宇田川家住宅や旧大塚家住宅などは当時の生活を知る貴重な文化財として保存されています。さらに、これらの建造物は、元町の原風景ともいえる境川周辺地域やフラワー通り、神社仏閣などと共に、観光資源としても評価されています。

しかし、それぞれ個々の文化資源は点在しており、これらの歴史的建造物や街並みを効果的に連携して、さまざまな文化資源をつないでいくことが必要です。これらを活かして周辺の街並みを整備すれば、風情のある街並みへと変貌し、まちおこしにつながると考えています。

今はまだ、元町地域には歴史的に価値があるものが数多く残されていますが、これらの物をできるだけ残していけるように努めていくことが必要です。元町地域の昔の風情を残すことは、元町の文化の保存にとっても重要と考えます。

さらに、歴史的に価値のあるものを後世に残していくために、有形文化財の整備を行い、大切に保存していかなければなりません。

また、無形文化財については積極的に後継者づくりを行わなければなりません。

無形文化財はその性格上、人が伝承するものであり、継承する人がいないとその技術も途絶えてしまうというものが大半です。後継者が不足する前に調査を行い、必要のあるものは積極的に保存・継承をしていく必要があります。

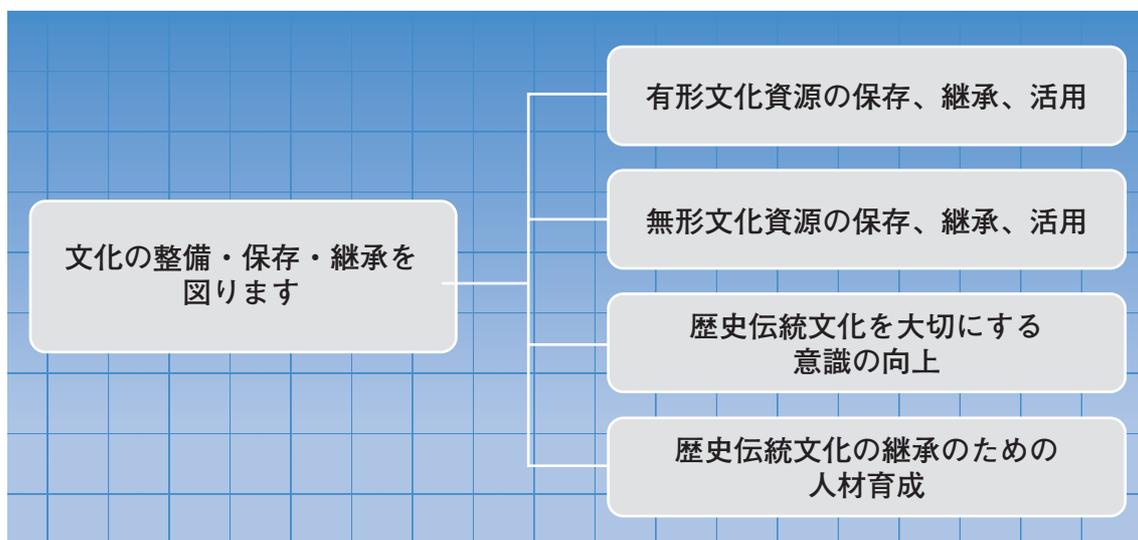
古いものが次々に無くなっていき、画一的なものが造られ、「浦安」を象徴するものが少なくなっています。

しかし、今はありふれたものでも、価値のあるものは保存していくという考えも必要です。昭和30年代の生活が見直されているように、現在の浦安市民のライフスタイルも、後世から評価されるかもしれません。初めから歴史的に価値があるものなどありません。後世に伝える必要があると判断したら、必ず保存するという意思が必要です。その価値は後世の人が見出してくれるからです。

【基本方針】

失われつつある伝承文化や技術の保存・継承を進めるとともに、歴史的に価値ある文化財の保存に努めていきます。

【施策の体系】



【施策の方向】

《有形文化資源の保存、継承、活用》

浦安の文化財は元町地域に多く残されています。漁師町だったかつての浦安の面影を残す歴史文化的な建造物を保存・継承していくとともに、その周辺の自然なども一体として保存し、周辺の住民が憩える場所として活用していきます。

また、建造物の保存については地域住民の意見を取り入れながら進めていきます。埋もれている文化資源についても、把握、掘り起こしに努め、その活用方策を検討していきます。

市民の協力を得て文化財の保存・継承活動を進めることが、これからますます重要になっていくとの考え方から、文化財の保存・継承活動を担う文化団体を支援するとともに、観光ボランティアを育成していくなど、支援するだけでなく、市民が活動に参加できるような体制作りについても進めていきます。

さらに、文化財の維持・管理・運営体制に市民と協働で取り組む仕組みについても検討していきます。

文化資源は、観光資源としても価値あるものです。点在している文化資源をつなげていくことにより、文化資源のネットワーク化を進め、文化資源をまちづくりにも活用していきます。

《無形文化資源の保存、継承、活用》

日常生活の中で失われつつある浦安固有の生活文化を保存・継承するため、お洒落踊りや浦安囃子の伝統芸能や、投網技術、船大工技術などの伝承技術の保存活動を行っている地域住民の主体的な活動を支援し、市民との協働により保存・継承を進めていきます。



伝説や民話など、埋もれつつある民俗文化については、地域の歴史などに詳しい高齢者や専門家の協力を得ながら、掘り起こしに努めていきます。

《歴史伝統文化を大切にす意識の向上》

歴史伝統文化の保存・継承を進める上で重要な施設である郷土博物館において、浦安の歴史や伝統技術に触れ、それらを学び、体験できる機会の提供の充実を図り、市民の郷土理解を深めていきます。

また、郷土博物館と学校との連携を図り、総合的な学習の時間などを活用して、浦安の子どもたちに地域の伝統芸能や伝承文化を学ぶ機会を提供していきます。

浦安の文化や歴史を学習する機会については、小中学校だけでなく公民館なども活用して、社会人向けの学習機会の拡大を図っていきます。

郷土博物館は情報発信の場でもあることから、積極的に情報発信するとともに、市内市外を問わず多くの人を訪れる文化施設となるよう、特色ある施設運営を推進していきます。

情報発信については、広報やホームページも活用し、浦安の歴史や伝統文化について、広く市民への周知を図っていきます。

《歴史伝統文化の継承のための人材育成》

地域の伝統芸能や伝承技術の保存や継承に関わる文化団体を支援し、後世に伝える人材の育成に努めていきます。

また、現在活躍している市民ボランティアを中心としながら、浦安の歴史伝統文化を広め、紹介できる人材育成を推進していきます。

さらに、市内の文化団体などの協力を得ながら、文化芸術活動を通じて、知識や技術を有する活動団体と個人、団体どうしの交流を活発にし、次の世代への文化の継承を進めていきます。

目標 4

「浦安らしさ」をつくり出します

【これからの文化】

【基本的な考え方】

浦安は、都心に近く交通の便も良いことから、移り住んでこられた方が多いことが特徴の一つとなっています。日本全国、ひいては世界のさまざまな国から新しい市民がやってくるまちは全国でも珍しい存在です。

既に埋め立てが行なわれてから40年の年月が経過し、最初に移り住んで来た方の中には、居住年数が30年を超える方もおられます。

また、東京ディズニーリゾートの存在をきっかけとして、特に若い人達が浦安に魅力を感じて移り住んで来ているという状況も見受けられます。

海辺に近く、リゾート的な雰囲気のある街並みは、浦安を代表する印象的な文化資源と言えるでしょう。また、図書館機能が充実し、利用者の多いことも全国的に有名です。

外国籍の市民の割合が高く、浦安市国際交流協会や浦安在住外国人会の活動が活発であることも、浦安の特徴の一つです。どちらも約20年の歴史を持ち、浦安の国際交流の面でこれまで多くの活動を支えてきました。

これら、さまざまな特徴を持つ浦安において、それぞれの文化資源をどのように浦安のこれからの文化として位置付けていくのか、考えていく必要があります。

「浦安の個性」や「浦安らしさ」とは、住む人のこだわりや意欲によって作り出されるものだと考えます。浦安に暮らすこだわりを市民一人ひとりが持ち、それらが積み重なることで、浦安らしさが生まれると考えています。

今、私たちの生活を見回してみると、生活に必要な物資は、日本各地はもとより世界中から集まって来ます。居ながらにして豊かな生活が送れることになりましたが、これでは、どこに住んでも同じ暮らしをしていることにならないでしょうか。そのようなことが続けば、当然、まちや文化は日本全国、画一的なものになってしまいます。

昔から住んでいる人、新しく住むようになった人、さらに違う文化や歴史を持った外国から来た人が同じ地域で生活しています。それらの人々の価値観は多様で、生活する中でいろいろな衝突や軋轢も起こるでしょう。

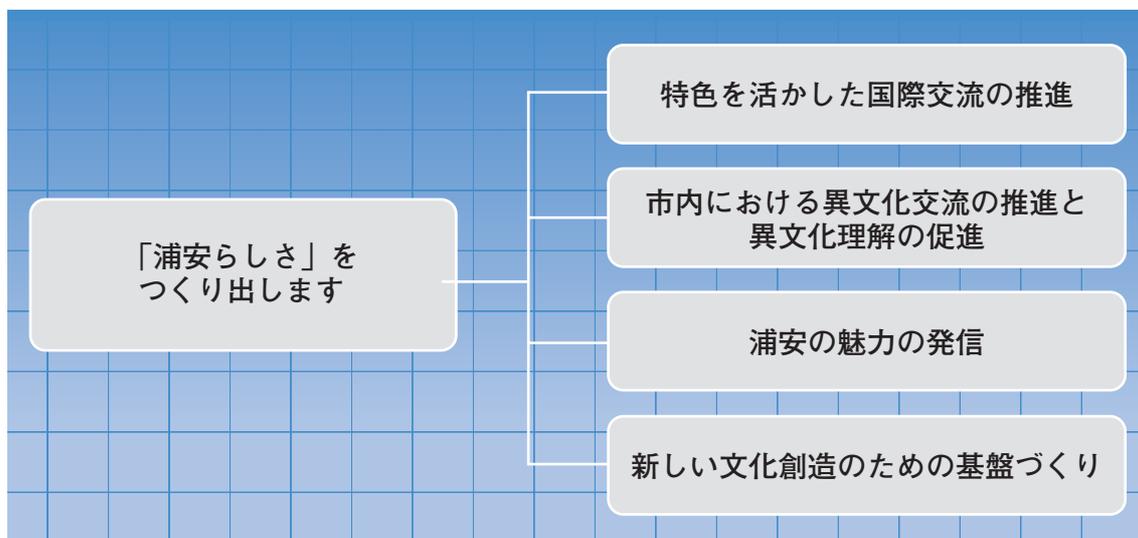
しかし、それを乗り越えてお互いを理解することで、初めて共生できるようになります。多様なものの見方ができることで、多様な価値観を認め合うことができ、それが「多文化の共生」につながっていくのです。

文化は受け身では生み出すことはできません。多様な文化を理解しながら、新しいものの見方を持つことにより、新たな文化が創造されます。

【基本方針】

浦安の特徴である、多様な文化や価値観を持った市民の個性を活かし、特徴ある文化資源を活用しながら、新しい文化の創造を進めていきます。

【施策の体系】



【施策の方向】

《特色を活かした国際交流の推進》

姉妹都市であるオーランド市との交流を積極的に進めるとともに、浦安の国際交流活動の中心となっている浦安市国際交流協会や浦安在住外国人会などの国際交流活動を支援し、特色ある国際交流活動の展開を推進していきます。

また、新浦安駅に新たに開設される国際センターを、国際交流の新しい拠点として位置付け、活用していきます。

日常生活のなかで、市内在住の外国人と交流することを通じて、地域住民の国際理解の促進を図っていきます。

また、国際理解が世界平和を願う気持ちへと発展するよう啓発活動を促進し、国際理解に対する市民意識の高揚を図っていきます。

《市内における異文化交流の推進と異文化理解の促進》

多様な文化活動を通して異なる文化や生活習慣に触れる機会を充実させ、異文化に対する理解を深める場を提供していきます。

また、異なる文化、習慣、考え方を持つ世界のさまざまな国の人たちへの理解を深めていくために、文化イベント等においてそれらを紹介する機会を設けるなど、異文化に触れることのできる場の拡充に努めていきます。

日常生活においては、市の提供するサービスの利用案内について、多様な言語で提供し、外国籍の市民にも生活しやすい環境づくりに努めていきます。

《浦安の魅力の発信》

市の広報やホームページなどを通して、新旧の街並みや水辺など、浦安の魅力を市内外に発信していきます。また、浦安の魅力をさらに理解できるように、多くの人が浦安を歩いて楽しめる浦安ガイドマップの作成や、地域住民によるガイドボランティア育成の仕組みを構築していきます。案内板やサインの充実、環境衛生の向上など、「もう一度浦安を訪りたい」と思ってもらえるような取り組みを進めていきます。

《新しい文化創造のための基盤づくり》

図書館においては、適切な学習機会を提供するとともに、利用者の多様な情報要求に対応し、利用者の拡大と利便性の向上を図っていきます。

また、一人ひとりが自分の個性や能力を伸ばし、豊かな生活を実感できるように、人生のどの時期からも学べる体制づくりを進め、学習活動を展開できる場の確保や学習情報の収集・提供に努めていきます。

文化活動の場を、学習活動にとどまることなく、さまざまな分野に取り入れていき、文化活動に親しむ市民の裾野を広げていきます。



目標 5

芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します 【芸術文化】

【基本的な考え方】

多くの人々が移り住んできた浦安において、これから力を入れたいと思われるものの一つとして「芸術文化の振興」があげられます。

人は美しいものを見たり、聴いたりして心に感動を生ずることで、生活に安らぎと潤いをもたらすことができます。優れた芸術を身近に接する機会を充実することにより、豊かで幅のある人生を送ることができます。

特に、子どもの頃に優れた芸術に接した感動は、新鮮な驚きであり、成長して大人になっても忘れることはありません。感受性の高い時期に、いろいろなものを見たり、聴いたりし、感動する機会に多く触れることが必要です。

また、芸術を鑑賞していると、時間がかかっても、プロのようにうまくいなくても自分でやってみたいという要求が生じてきます。

自分でやることで作り出す喜びや充実感が生まれてきます。いわゆる「手作りの喜び」です。このような機会を充実する必要があります。

さらに、それを人に見せたい、評価してもらいたいという自己表現に対する欲求が出てきます。発表したり、表現したりする場所や機会を、身近なところで数多く作り、多くの市民が、文化・芸術を日常として感じ、気軽に参加できる土壌づくりを行っていくことが必要です。

浦安市には文化会館・市民プラザ・各地区の公民館とさまざまな施設があり、それらを利用した



さまざまな文化活動が行われています。文化会館では、多様なジャンルのプログラムが提供されていますが、今まで以上に、市民の望む質の高い芸術文化に触れる機会を

充実させることが重要と考えます。

また、市内には優れた美術品が数多くあり、文化会館や市庁舎、図書館、各公民館などに展示されています。

しかし、残念ながら浦安市にこれほどたくさんの優れた美術品があることを、多くの市民は知らないというのが現状です。

市民の多くは、個人的に楽しむことのできる「映画」や「音楽」、「文学」などの文化活動に親しんでおり、団体での文化活動の機会が少なくなっています。

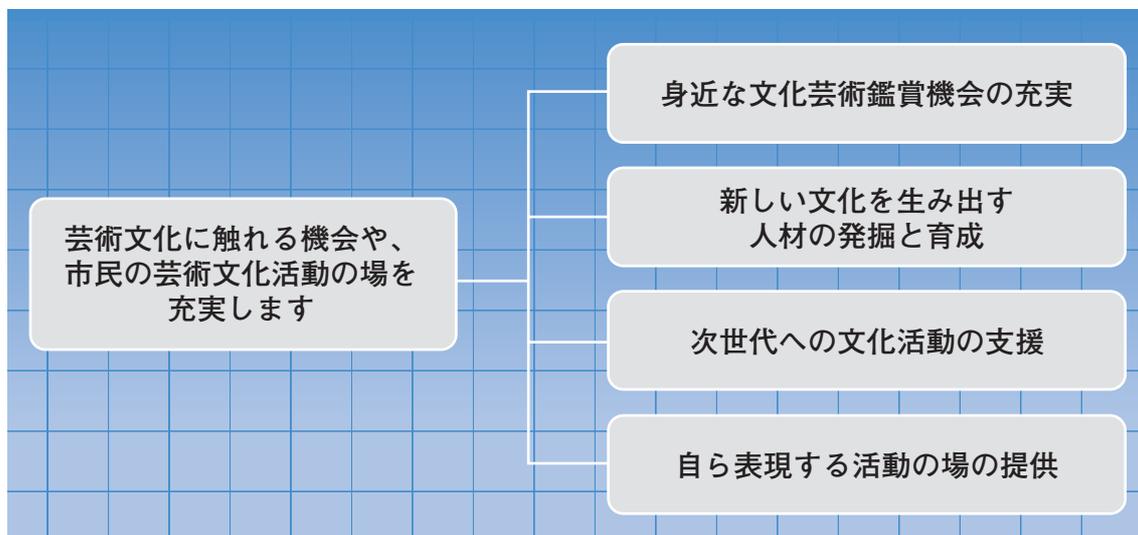
これからは、文化施設が、地域や専門家と市民をつなぐコーディネーターの役割を担うことが必要になってくると考えます。そのためにはいろいろな企画を立案することのできる専門家が必要になるでしょう。

また、単に会場を提供するという「貸し館」的な機能にとどまらず、文化の送り手として、地域の中に積極的に入り込んでいく「アウトリーチ活動」により、日頃、芸術的な文化活動に親しむ機会の少ない人達に対して、施設側から積極的に働きかけることも必要です。

【基本方針】

優れた芸術文化に触れる機会と、主体的に芸術文化活動ができる機会の双方を充実させ、市民が日常的に芸術文化活動に参加できる環境づくりに努めていきます。

【施策の体系】



【施策の方向】

《身近な文化芸術鑑賞機会の充実》

市民誰もが優れた芸術に親しみ、心豊かな生活が送れるよう、市内で身近に文化芸術を鑑賞できる機会の充実を図っていきます。特に、青少年に対して、優れた芸術文化に触れる機会の場を充実させ、豊かな心や創造性の育成を促進していきます。

鑑賞機会の充実と合わせて、子ども自身が舞台芸術や演奏活動に参加できる機会を拡充し、表現する場の充実も進めていきます。

芸術文化がそれほど身近な存在でなかった市民に対しては、鑑賞のきっかけづくりとなるよう、定期的な鑑賞講座を開催するなど、芸術文化への理解を深める働きかけを行っていきます。

また、公共文化施設においてはアウトリーチ活動の実施を検討するなど、文化施設の利用促進と、文化施設の認知度を高めることに努めていきます。

さらに、市で所有している美術品を多くの市民が鑑賞し、楽しむことができるように、市内の公共施設の展示スペースの拡充や、展示情報の一元化、PRを積極的に行っていきます。

《新しい文化を生み出す人材の発掘と育成》

浦安市内には、専門的に芸術活動を行っている方や、優れた文化的資質を持った方が多く居住していると考えられます。そのような市民や団体に、市民の文化芸術活動の指導者として活躍してもらえるような仕組み作りが必要だと考えます。浦安市在住の文化人や市内で活動する文化芸術団体の登録制度を創設したり、浦安市に関わりのある芸術家を発掘するなど、人材の把握を検討していきます。

また、将来的には、浦安市在住及び浦安市出身の芸術家の創造活動を支援したり、演奏会や展覧会など発表の機会を提供していくことを進める必要があると考えています。市内で活動している芸術家と市民や青少年が、文化活動を通して交流できるような機会の提供、さらには、大学などとの連携についても検討していきます。

《次世代への文化活動の支援》

子どもたちへ文化活動の場を提供するために、学校教育や幼児教育での芸術文化活動や芸術鑑賞機会を充実していきます。

また、子どもが参加するコンクールや展覧会など、子ども自身が参加し、体験や交流のできる文化芸術活動の発表の機会を拡充するとともに、芸術鑑賞教室などの親子で参加できる鑑賞機会も充実していきます。

青少年に対しては、新浦安駅前複合施設などを活用し、芸術・音楽・文化などを通じたさまざまな体験や活動の場の提供に努めていきます。文化活動を通じた交流を活性化することにより、青少年の健全な育成を図っていきます。



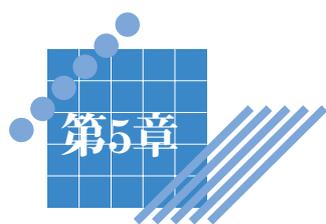
市民一般を対象としている文化芸術事業や地域のイベントにも、子どもの参加を促進していきます。子どもに親しみやすい事業内容や運営の方法などを検討し、子どもの視点に立った文化芸術事業の企画に努めていきます。

《自ら表現する活動の場の提供》

市民の主体的で創造性の高い芸術文化活動を支援するために、公共文化施設の柔軟な運営体制に努め、活動の場の提供を促進していきます。

また、青少年が優れた芸術を創造し発表できる場を、既存施設を有効活用しながら確保に努めていきます。

市民の多彩な文化活動の場を提供できるように、公共文化施設や社会教育施設、学校などとの連携を模索しながら、常に新たな実施場所、形態について検討し、身近な地域で芸術文化活動を始めるきっかけを作り出すことに取り組んでいきます。



第5章

文化振興ビジョンを進めるために

地域の文化活動の担い手は、もちろん市民です。行政は、市民の期待や信頼のもと、市民の文化活動のきっかけづくりや、文化活動を結びつける役目を果たすことで、市民と行政の協働による文化の創造をさらに発展させることができます。

文化創造の担い手である市民が主体的に行動し、それを行政が支援するという役割分担と連携、協働により、文化振興を進めていきます。

ビジョンの5つの目標を実現させるためには、より実効性のあるものにする必要があります。市ではこの文化振興ビジョンが策定された後、そのビジョンの理念に基づき、具体的な施策について関係課と連携を図りながら、以下の点を踏まえて文化振興を進めていく考えです。

(ア) 各種計画との連携を図っていく

文化振興ビジョンは、理想を追い求めるだけでなく、進むべき方向性を示したものです。ビジョンの考え方を踏まえて、市の各種計画と連携を図りながら、文化振興を進めていきます。

具体的に推進するために、これまでの庁内の枠組みを超えた連携を図り、具体的な計画の立案や実施、評価などを進めることのできる仕組みづくりに取り組んでいきます。

現行の制度や各種計画にも文化的視点を積極的に取り入れ、文化活動や文化資源を活用したまちづくりを進めていきます。

また、文化活動は多様な効果をもたらすことが期待できることから、教育や福祉、コミュニティの育成、まちづくり、都市整備など、さまざまな分野に取り入れていき、文化的視点を持った施策の展開に努めていきます。

(イ) 市民に対して多様な方法で情報提供を行う

「文化活動に関する情報が伝わってこない」という市民の意見を大きく受け止め、文化活動に関する情報を市民と行政で共有し、さまざまな情報提供の方法を検討していきます。

それぞれの情報が個別に、一方的に提供され、情報の利用者は全くの受け身である状況では、発信された情報は活かされません。特に、ホームページなどインター

ネットなどを活用した文化情報の受発信機能を充実し、いつでも、誰でも、どこからでも情報にアクセスできる環境づくりを進めていきます。

ホームページや広報うらやすにおいて、市民の声を反映しながら、より充実した文化芸術情報の提供を図っていきます。

また、既存の情報紙においても紙面を工夫するなど、必要な人に届く情報提供に努め、市民の文化活動支援の基盤づくりを推進していきます。さらに、鑑賞したことや発表した感想、文化活動に関する意見を出せる場づくりについて検討を進めていきます。

文化会館や図書館、郷土博物館など市内の公共文化施設においても、連携を強化し、市民の利便性の向上や効果的な情報提供のためのネットワーク化を推進していきます。それぞれの文化施設に合った専門性の高い情報の収集、発信に努め、利用者に対する確かな情報が提供できる体制づくりに取り組んでいきます。

(ウ) 「市民が主体の文化振興」という視点を持つ

文化は芸術活動や日々の生活の中で、市民どうしのさまざまな活動により創造され発信されていきます。

文化の担い手は市民の方々であり、その活動を側面から支えていくのが行政の役割となります。市民の皆さんの持っている知識と経験を活かし、それぞれが協力しながら役割を果たし、新しい文化を創造・発信していく体制づくりに努めていきます。

特に、高齢者の方々や若い世代の親子が、興味のある文化活動に気軽に参加できるような環境を整備していくことは大切なことと考えています。

公共文化施設においては、利用者の立場に立った施設運営に努め、誰もが利用しやすい環境づくりを進めていきます。高齢者や障害者、子育て家庭等が文化活動に親しみ、好きなことに自ら参加できるように、公民館や文化会館等のプログラムの充実を図っていきます。

また、公園や広場などの屋外空間についても、文化芸術のための鑑賞や創造・発表の場として活用していくことを検討していきます。

文化事業や催しなどの企画・運営においては、市民と協働で行う体制づくりを検

討していきます。文化施設で市民ボランティアの活躍できる場を広げ、その育成と活用を図っていきます。

さらに、市民と行政のまちづくりワークショップの開催など、文化的なまちづくりについて市民と行政が共に考える場の設置を検討していきます。

(エ) 職員の文化意識を向上する

行政運営を、文化的な視点を持って行うためには、職員の文化に対する意識を高める必要があります。

この文化振興ビジョンの趣旨を踏まえて、文化担当職員はもとより、全職員に対して意識の向上を図るような研修を行っていく考えです。

文化行政に携わる行政職員の研修を充実させ、育成と活用に取り組むとともに、公共文化施設において、専門的知識や技術を持った人材の登用を検討していきます。

また、公共文化施設において、より多くの市民がもっと気軽に集い、活用できる場となるように、市民の協力を得ながら、開館時間などきめ細かい運営のあり方を幅広い観点から検討していきます。

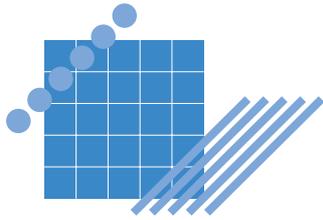
さらに、市民が日常利用するさまざまな公共施設を、従来の利用目的にとらわれず、市民の文化芸術活動の場として活用し、市民が身近に文化芸術に触れることのできる空間としていくことに努めていきます。

(オ) 文化推進のアドバイザーとなる人を育成する

文化活動を推進するためには、文化の視点でものを見ることができの方に助言者となっていただくことが必要と考えています。

市民の方々の中には、文化に対する知識・経験をお持ちの方が数多くおられることから、そのような市民の方の協力を得ながら、研修等も充実させ、人材の育成に努めていきます。ボランティア団体やボランティアを始めようとしている市民に対しては、情報提供や学習の場の提供を行い、ボランティア活動に参加する市民を増やしていきます。特に、浦安を訪れた方に対してガイドとして活動できるようなボランティアを養成し、浦安の歴史・文化などを紹介するだけでなく、浦安の個性を理解し、文化の推進に活かしていける市民を増やしていきます。また、市民の方々

の持つ専門的知識や経験を活かせる場の設置も検討し、将来的には、市民が文化推進のアドバイザーとなるような体制作りを進めていきます。



付属資料

(設置)

第1条 本市における文化的まちづくりの推進と市民文化の振興を図るべく幅広い観点から検討を行うため、浦安市文化振興ビジョン策定懇話会（以下「懇話会」という。）を設置する。

(懇話会の任務)

第2条 懇話会は、市民文化振興のあり方などを示す文化振興ビジョン策定にあたり、必要な事項について検討・協議し、その結果を報告書としてまとめ、市長に提出するものとする。

(委員)

第3条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募により選出された者 3人
- (2) 学識経験者 6人

2 委員の任期は、第2条の任務が終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第4条 懇話会に会長及び副会長各1名を置き、委員の中から互選する。

2 会長は、会務を総理し、懇話会を代表する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 懇話会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

(会議の公開等)

第6条 懇話会の会議は、公開するものとする。

2 懇話会の会議を傍聴しようとする者に対し、適切な利便を提供するよう務めるも

のとする。

3 会議終了後、速やかに会議録を作成し、公開するものとする。

(懇話会の事務)

第7条 懇話会の事務は、市民経済部文化国際課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるほか、懇話会の運営及びその他必要な事項は、会長が懇話会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成16年11月24日から施行する。

はじめに

文化とは、この人の世を意義あるものにしたいという人々の願望から、地域社会の集団の夢が姿・形となって表われたものであると考えるとき、それはもともと自由な心の働きである故に、多様かつ個性的なものでありますが、生まれ育って広く共感を得、人々の喜び誇りとなるならば、永い時の間に地域社会に定着していくものと思われれます。

文化とは何か、多様な文化についてどのように考えればよいのか、当初は皆それぞれに戸惑いを感じながら、松崎市長の委嘱を受けた各分野からの学識経験委員6名と公募委員3名は、本年2月から9月までの間に、市内の文化財視察を含めて7回の懇話会に参集し、親密な議論を重ねて参りましたが、さまざまな角度から出された意見を体系的に構成し集約したものが、ここに提出する「浦安市文化振興ビジョン策定懇話会意見書」であります。

この懇話会が発足した頃に並行して実施されました市民アンケートの成果は、これを十分に尊重し、文化振興ビジョンが市民全体で共有できるものとなることを願って、この意見書に反映させて頂いております。さらに、将来とも市民の声が適時有効に活かされることを望んで、文化振興ビジョンの推進に係わる方策についても、特にこの中に意見提案を申し上げた次第であります。

労苦の多い生活の中で浦安の文化を支えて来られた数多の先人と先達、そして、知らず識らずのうちに文化の環境を体感しはじめる幼少の子供たちにも思いを致すとき、地域の文化について語ることは身の引き締まるものを覚えます。新しい政策の企画と実施に携わる方々にとって、この意見書が何らかのお役に立つものとなれば、懇話会の委員一同とともに、望外の喜びと存じます。

浦安市文化振興ビジョン策定懇話会

会長 三本木健治（明海大学教授）

1. 浦安市における文化振興の意義

高度経済成長により、多くのものを手に入れた私たちは、また同時に多くのものを失いました。その反省から、環境保全に対する意識が高まると同時に、自分自身の生活を大切にするなど、「ものの豊かさ」から「心の豊かさを」求めるように価値観が変化してきました。

浦安市は、農漁業が中心的産業であった時代から、高度成長期を経て、埋め立てによって市域が4倍になったことにより人口も急増し、大きな変化を遂げました。全国各地からたくさんの人々を受け入れ、現在では外国から移り住んだ人々も増加しています。様々な文化を持った人が集まるまちとなった浦安市は、良き古きものを守りつつ、新しい文化の育つ土壌を十分に持っていると考えられます。

人生観や価値観の異なる多様な人々が集まり、居住している浦安市において、お互いを認め合い、尊重していくことは大変重要です。特に、生活やまちに密着した「文化の振興」は人と人とを結びつける上で重要な要素になると考えられます。

「文化」とは、裏を返せば「平和」であり、平和なまちに文化は育つと言えます。文化とは、生きているものであり、常に変化し、作り上げていくものです。浦安の文化とは何か、浦安独自の文化振興とはどういうものかをもう一度見直し、市民に豊かな生活をもたらす浦安文化の発展のために、文化振興ビジョンの策定は大きな意味を持つと考えます。

2. ビジョンが目指す市民文化のすがた

豊かな文化を持っている市民とは、人に対して優しい気持ちになれる市民です。また、自分のまちを愛し、「心のふるさと」と感じる事ができる市民です。文化の振興から「感動」と「思いやり」が生まれます。

文化振興ビジョンでは、「市民の生きた文化活動が地域全体に広がり、市民一人ひとりが幸せや、生きる喜びを感じる文化的なまちのすがた」を、ビジョンが目指す市民文化のすがたとして提案します。

3. ビジョンの基本的方向

日常生活における人々の交流により、文化は育ちます。また、浦安の歴史や生活の中で受け継いだ文化を知ることが文化振興に欠かせません。浦安にある身近な文化を見直し、生活やまちに密着した生活文化を大切にすることを、文化振興ビジョンの基本的方向として提案します。

○生活やまちに密着した生活文化を育む

また、「生活やまちに密着した生活文化を育む」ことを基調としながら、具体的には多様な方向があると考えられます。その例示として、

- 身近な文化の掘り起こし・再発見
- 浦安独自の文化の創造
- 浦安の歴史・文化を多くの市民に広めること

なども考えられます。

4. ビジョンの5つの目標

文化振興ビジョンでは、以下の5つを文化振興の目標として位置づけ、文化振興を行うことを提案します。

- 目標1. 多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます
- 目標2. 生活の中で「地域の文化」を育みます
- 目標3. 文化の保存・継承、創造を図ります
- 目標4. 「浦安らしさ」をつくりだします
- 目標5. 芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します

目標1. 多様な文化を活かし、創造的なコミュニティの輪を広げます

日常の文化

【現状認識】

浦安市は、全国各地、また、世界の国々から多くの人々を受け入れて発展してきました。しかし、新しく市民となった人々のなかには、東京に近いことを利点として移り住んできた人も多く、自分の住むまちへの関心がまだ高まっていない人が見受けられます。また、住んで間もない人の多い地域では近所づきあいも活発でなく、コミュニケーションの不足している地域もみられるなど、地域活動の状況も地域によってさまざまです。

身近な文化活動に参加することから、住む地域や年齢などの違いを超えたコミュニケーションが生まれます。文化活動から生まれたコミュニティは文化振興の基礎になると考えられます。多くの市民が、生活の中の身近な文化活動に気軽に参加でき、新しい仲間を作り、その輪を広げていくことは、文化振興の上で重要な要素であると考えられます。

また、浦安では公民館活動が活発で、公民館は最も利用されている文化施設の一つとなっています。カルチャーセンター的な活動が中心となっていますが、それらの活動だけにとどまることなく、浦安全体の文化の充実、発展を望むいくつかの核となることが大切と考えられます。

【課題】

1. 地域で行われている文化活動に対する関心を高めること
2. 新しい仲間を作ることでできる文化活動を推進すること
3. 文化活動から市民が交流できる機会をつくること
4. 文化活動から生まれたコミュニティどうしをつなげていくこと

【基本的提案】

自分の住むまちを知り、周りの人々とつながりを持つきっかけとなる文化活動を促進し、文化を通じた市民の交流を活発にする

【個別的意見】

- ・ 既存のイベントを、一部の人のものではなく「市民の交流」という観点から見直す
- ・ シンボルロードなどを活用した新しいイベントを創設する（ストリートミュージシャン大会など）
- ・ 川を中心としたイベントを開催する（境川など）
- ・ 船に乗って海からみた浦安を体験する（浦安海浜ツアーなど）
- ・ 生活の中における住民どうしの国際的理解を進める
- ・ 文化施設に「文化ボランティア」を導入する（ガイド、語り部など）

目標2. 生活の中で「地域の文化」を育みます

地域の文化

【現状認識】

浦安では、漁業を主体としながら、水田や蓮田などの農業も営まれ、多くの住民は半農半漁で生活を立ててきました。今日でも、当時の生活に密着した文化は、数多く残されています。特に、かつてまちの中心地であった元町地域には、土地に根付いた文化の薫りや、歴史の面影があり、当時の生活文化を受け継いでいる市民も多く居住しています。しかし、埋め立てによってできた新しいまちを中心に人口が増加し、新たに浦安市民となった人々の数はもともと浦安に住んでいた人を上回るようになりました。新しいまちで生まれた子どもたちにとっては、新しいまちが「ふるさと」となっています。

郷土博物館は、浦安の歴史や文化を多くの人々に紹介する場となっていますが、訪れたことのある市民は全体の約三分の一です。浦安のことをもっと知りたいと思っても、どのようにしたらいいのかわからずにいる市民に対して、浦安の文化を身近な文化と感じてもらえるようなきっかけを与えることは、浦安の文化振興においてとても重要なことと考えます。特に、浦安弁、貝むき、のりすきなどの技術、アサリ、のりなどを用いた食文化など、失われつつある地域文化を発掘し、再発見することは、文化の掘り起こしになると考えられます。

一方で、新浦安周辺の新しい街並みは多くの人々を魅了しています。浦安市は「住みたいまち」の上位に選ばれるほど人気があり、美しい街並みは多くの人から支持されていると言えます。計画的に作られたまちは、ともすると無味乾燥な印象を与えますが、緑を配置することで、人の心を和ませる街並みとなります。浦安がふるさととなる子どもたちのためにも、緑あふれるまちにすることが大切と考えます。

【課題】

1. 新しく市民となった人々に対して浦安固有の文化への関心を高めること
2. 子どもたちへのふるさとづくりを進めること
3. 新町における新しい地域の文化を育むこと

4. 効果的に緑化を進めること

【基本的提案】

元町地域にある昔からの生活文化の保存・継承と、新町地域の新しい文化の創造をともに進めていく

【個別的意見】

- ・浦安に根ざした文化や歴史に触れることのできる機会を、多くの市民に提供する仕組みをつくる
- ・貝むきやのりすきなどを市の無形文化財に指定し、保存・継承を図る
- ・点として存在する公園を緑道で結ぶなど、市全域にわたり景観を意識した緑化を進める
- ・「子ども文化協会」や「職人の会」など文化振興団体の設立を検討する
- ・「浦安の食文化」を広く紹介できる機会を創設する（シンボルロードでの浦安食文化まつりなど）
- ・昔の浦安の映像化・舞台化を企画する

目標3. 文化の保存・継承、創造を図ります

歴史文化

【現状認識】

浦安市域の中で、特に昔の中心地であった元町地域は、昔の浦安を知る人々の多く住む地域でもあります。しかし、その人々の多くは高齢になり、生活文化である貝むきや投網の技術の継承、浦安弁の保存が課題となっています。

街並みと同様に重要なのは、境川です。元町の文化は「川の文化」であり、境川の昔の風情を残していくことは、元町文化の保存に大変重要な意味を持ちます。また、浦安は三方を水に囲まれたまちでもあります。まちを災害から守るための堤防や護岸整備により、生活世界を遮断されて、現在では海や川は身近な存在ではなくなってしまいました。しかし、漁業のまちであった浦安にとって、水との関わりは大変深いものがあります。境川周辺は、昔の姿を失いつつあります。新しいものだけが美しいとは限りません。古いものには人の心があります。

歴史的街並みの保存も、個人の努力では限界になってきています。元町の前風景ともいえる境川周辺やフラワー通り、神社仏閣などは、観光の専門家からも高く評価される場所です。しかし、古い住宅の建て替えが進み、高齢化した土地の所有者が土地を手放すなど、昔の面影を残す街並みが減ってきています。浦安の歴史を感じさせる建造物を中心に周辺整備を進めなければ、そのような街並みは十数年のうちに失われてしまうでしょう。

【課題】

1. 浦安固有の文化の保存・継承システムを構築すること
2. 歴史的街並みを周辺と一体で保存・継承していくこと
3. 海や川にまつわる文化を保存・継承すること
4. 境川周辺の風情を残すこと

【基本的提案】

失われつつある伝承文化や技術の保存・継承、歴史的街並みの保存を積極的に進める

【個別的意見】

- ・ 属人的な文化の保存・継承を、郷土博物館や文化活動団体などを活用してシステム化する
- ・ 境川や神社仏閣、フラワー通りなどの街並みを、一体として保存継承する
- ・ 歴史的建造物を一カ所に集約して保存する
- ・ 歴史的建造物の保存に際し、住民に対して行政が経済的なサポートをする
- ・ 歴史的建造物（宇田川家・大塚家や神社・仏閣など）をネットワーク化して活用する
- ・ 昔の風情を残す地区を指定して景観形成を図る
- ・ 元町の景観保存のための地区整備の計画を定める
- ・ 境川周辺の風情の保存を図る（境川・神社仏閣観光ルートの設定など）
- ・ 境川周辺に、人々が街並みを楽しめるような散策道を設置する
- ・ 「浦安百景」を指定する
- ・ 地域の防災対策も進めながら、昔の風情を残した街並みを保存する
- ・ 郷土博物館を伝統文化の中核的施設として活用する
- ・ べか舟づくりを再現し、また、舟遊びを体験できる機会を設ける

目標4. 「浦安らしさ」を作り出します

これからの文化

【現状認識】

浦安の特徴として誰もが思い浮かべるのは東京ディズニーリゾート（TDR）でしょう。TDRの存在がひとつのきっかけとなり、多くの人に移り住み発展してきたと言えるかもしれません。都心に近いこともあり、多くの外国人が住んでいることも、浦安の特徴の一つといえます。

また、図書館が充実していることは、多くの市民が誇りに思っています。図書館をここまで発展させてきたのは、書物に対する市民の高い知的欲求であったとも言えるでしょう。市民アンケートからも、市民は文化振興に対して高い視点を持っていることがうかがえることから、市民の知的欲求を満足させられるような文化振興が望まれます。

浦安市国際交流協会や浦安在住外国人会の活動が活発であることも、浦安の特徴の一つです。どちらも約20年の歴史を持ち、浦安の国際交流の面でこれまで多くの活動を支えてきました。現在では約70カ国の外国籍の市民が住んでいます。外国の文化を知ることは、お互いを理解することに通じ、国際平和にもつながります。文化は、世界が一つになる大切な役割を持っています。

【課題】

1. 「多文化共生のまち」を創造すること
2. 国際性を文化振興に活かすこと
3. 市民の知的欲求に応えるような文化振興を進めること

【基本的提案】

多様な人々、多様な文化を活かした文化活動を促進する

【個別的意見】

- ・図書館を活かした活動を促進する

- ・「整然とした街並み」と「わびさびのあるまちの風情」を共存させる
- ・全国的・国際的プライズイベントを設立する（カンヌ国際映画祭、ベネチア・ビエンナーレのようなプライズイベントなど）
- ・さまざまな国の文化を知る機会を充実させる（異文化交流プラザの開設など）
- ・浦安市全体を広い意味のテーマパークとして考える
- ・「文化特区」の創設を検討する
- ・文化憲章を制定する
- ・民間企業やNPO、NGO等も利用できる国際センターの設立を検討する
- ・インターナショナルスクールの誘致を検討する

目標5. 芸術文化に触れる機会や、市民の芸術文化活動の場を充実します

芸術文化

【現状認識】

浦安市文化会館では、さまざまなジャンルのプログラムが提供されていますが、市民の望む質の高い芸術に触れる機会は、十分に提供されているとは言えない状況にあります。また、市内には一流の美術品が数多くあり、文化会館や市庁舎、図書館、各公民館に展示されています。しかし、残念ながら美術品として鑑賞できる環境にはなく、浦安市にこれほどたくさんの優れた美術品があることを、多くの市民は知らないというのが現状です。

全国各地、そして海外からも人が集まるようになった浦安で、これから力を入れたと思われるものの一つとして「芸術文化の振興」があげられます。浦安市は東京都に隣接しているため、一流の芸術に触れる機会に恵まれています。もっと身近に芸術文化に触れ、感動する機会があれば、人々の心をさらに豊かにすることができると考えられます。

市民アンケートにも「質の高い芸術文化に触れたい」という希望は多く、特にこれからの社会を担う子どもたちに対して、この浦安で芸術文化に触れる機会を充実させることは、多くの市民が重要と考えており、文化振興は「未来への投資」とも言えます。

また、市民アンケートによれば、市民の主な文化活動は「映画」、「音楽」、「文学」などで、家庭等で一人で鑑賞したり、読書をしたりすることが中心となっており、団体での文化活動の機会が少ないことがわかります。参加してみたい文化活動があっても、時間が合わないなどの理由から、参加しにくい状況にあるようです。

【課題】

1. 一流の芸術文化を身近に楽しむことのできる機会を増やすこと
2. 子どもたちが質の高い芸術に触れることのできる機会を充実すること
3. 既存の文化施設を多様に活用すること
4. 市内にある数多くの優れた美術品を活かすこと

5. 市民の芸術文化活動の場や発表の機会を充実すること

6. 市民全体について、文化に対する意識を高めること

【基本的提案】

優れた芸術文化に触れる機会と、主体的に芸術文化活動ができる機会の双方を充実させる

【個別的意見】

- ・文化会館や市民プラザで、市内美術品展覧会を開催する
- ・浦安市美術館の建設、もしくはインターネット上でのバーチャル美術館を実現する
- ・地域美術資料レファレンスの整備と美術品目録のデジタル化を進める
- ・文化施設によるアウトリーチ活動（施設側から市民に働きかける活動）を検討する
- ・多目的文化施設の整備などにより、市民の芸術文化活動の場を提供する
- ・駅や銀行、ホテルのロビー等を利用した市民絵画展を開催する
- ・文化施設への学芸員の配置または専門的ノウハウを持つ職員の養成を検討する
- ・文化活動団体どうしの交流の場を充実させる
- ・文化活動における指導者の育成を図る

5. 文化振興ビジョンを推進するために

(1) 具体的な施策・事業を盛り込むこと

文化振興ビジョンが、理想だけを追い求めるのではなく、実際の文化振興において具体的な指針を示すものであることが、このビジョンで最も重要なことと考えます。しばしば、ビジョンというものは絵に描いた餅で終わることがあり、美辞麗句が並べられているだけとなっているものが散見されます。そこで、その推進のための具体的な施策、手法を盛り込むことを特に提案します。

(2) 情報の共有、予算の透明化を図り、市民に対して説明責任を果たすこと

文化活動に関する情報を、市民と行政で共有することは、文化に対する関心を高め、文化活動への参加を促すことに通じると考えます。また、文化振興の重要性に対して共通認識を持つためには、説明責任を果たすことがとても大切になると思われます。ハコモノ整備など多大なコストがかかる事業については、市民や有識者の意見も交えて、情報の共有、予算の透明化を図りながら進めることが望ましいと考えます。

(3) 市民に対して多様な情報提供を行うとともに、市民の意見を取り入れること

市民アンケートから、市民は文化に関する情報を求めていることがわかります。市民の参加は情報提供から始まるとも言えるでしょう。転入者が多いという浦安の特徴を踏まえて、情報提供の方法を工夫することが望まれます。また、行政からの情報発信とともに、市民の意見を取り入れ、双方向で情報交換のできるような仕組みが実現すれば、より豊かな文化振興につながると思われます。

(4) 「市民が主体の文化振興」という視点を持つこと

市民は、文化に対して高いレベルのものを望んでいると思われます。市民の持つ文化水準の高さを活かし、「市民が主体」という視点で文化振興を捉え、行政はサポート役に徹するという考え方もあります。市民は、自分たちの持つ知恵と力を出し合い、行政も、市民の力を活かすという方向へ向かうことが望まれます。

また、限られた時間帯にしか文化活動に参加できないという時間的な制約を受ける市民が、壮年だけでなく若い世代にも数多く見られます。高齢者や若い世代、親子や隣どうしが、興味のある文化活動に気軽に参加できるような環境整備が望まれます。

【個別的意見】

- ・民間団体やNPO等のノウハウを活用することも視野に入れて、多様な方法によるわかりやすい情報提供に努める
- ・「浦安文化を考える」常設意見箱をホームページに設置し、常時意見が出せるようにする
- ・市民の優れた文化活動に対して賞賛と顕彰を与えることを検討する
- ・文化活動年間カレンダー・文化施設マップを発行し、市民参加を促進する
- ・市民の自主的な活動を促し、行政がサポートする体制づくりを進める
- ・高齢者の知恵を活かしたボランティア活動を、文化施設で取り入れる
- ・外国語のできる市民をボランティアとして登録し、各文化施設で活躍してもらう
- ・外国人対して、文化活動に関する情報提供を充実させる
- ・文化活動の時間や曜日の選択肢を増やし、参加申込方法を簡素化する
- ・子どもからシルバー世代まで市民全員が文化活動に参加できる環境づくりを進める

浦安市文化振興ビジョン策定懇話会会議開催状況

	開催日時	主 な 議 題
第1回	平成17年1月24日	○委嘱状の交付
		○会長、副会長の選出
		○今後の会議の進め方
第2回	平成17年3月15日	○アンケート調査結果(中間報告)について
第3回	平成17年4月7日	○浦安市文化振興ビジョン策定調査報告書について
		○浦安の文化を考える要素について
		○市内めぐりについて(美術品・文化財等)
文化財視察	平成17年5月11日	○市内美術品めぐり
第4回	平成17年6月22日	○浦安の文化を考える要素について
		○5つの骨子と懇話会での意見について
第5回	平成17年7月25日	○浦安市文化振興ビジョン策定懇話会意見書(骨子案)について
		○5つの骨子と他の都市の事例について
第6回	平成17年9月15日	○浦安市文化振興ビジョン策定懇話会意見書(案)について

浦安市文化振興ビジョン策定懇話会委員名簿

委員構成	氏 名	所 属 等
会 長	三本木 健 治	明 海 大 学
副会長	山 本 悦 子	社会教育委員
委 員	池 田 薫 秀	美 術 協 会
委 員	泉 澤 慎 吾	文化財審議会
委 員	小野寺 歌 子	公 募 市 民
委 員	小 山 武 則	商工会議所
委 員	平 野 民 夫	公 募 市 民
委 員	山 崎 常 雄	公 募 市 民
委 員	ラビンダー N.マリク	在住外国人会

あ行

アウトリーチ活動

地域社会への奉仕（援助・福祉）活動、公共機関や奉仕団体の出張サービスのこと。文化の観点では、日頃、芸術や文化に触れる機会の少ない市民に対して、文化施設側から働きかけを行うことを意味する。

NPO

民間非営利団体などと訳される。利潤を上げることが目的としない、公益的活動を行う民間団体。活動範囲は、教育、社会福祉、環境保全、国際交流等多岐にわたっている。

か行

企業の社会的責任（CSR）

経営活動の中に社会的公正や環境への配慮を組み込み、株主や取引先のみならず、従業員、消費者、地域社会など多様な利害関係者に対して責任ある行動を取っていくという考え方。CSRはCorporate Social Responsibilityの頭文字をとった略語。

協働

共同の担い手として、適切な役割分担のもと、協力して働くこと。互いに成果と責任を共有し合う、対等な協力関係が前提となる。

郷土博物館

郷土に愛着や誇りをもてるよう、市に残された貴重な文化財資料を活用して、市民自ら郷土の歴史を学び理解することができるようにした郷土学習のための拠点施設。2001年（平成13年）4月1日開館。

景観マスタープラン

景観に関する共通認識、約束事を記した、いわゆる景観行政の拠り所になるもの。このマスタープランに基づいて、より具体的な景観形成の方策を策定し、用途地域、地区計画などの他の都市計画との相乗作用によって、景観・環境をより魅力あるも

のへと導いていく計画。

景観行政団体

平成16年6月に制定された景観法に基づき、都道府県、政令市、中核市、政令市・中核市以外で都道府県の同意を得た市町村を景観行政団体という。景観行政団体は、地域の実情に応じた良好な景観形成を図るために、区域や景観形成に関する方針などを定めた景観計画を策定することができる。

公園の里親制度

道路・河川・公園などの身近な公共施設を対象に、市民と行政が互いの役割分担を定め、地域の環境美化を進める取り組み。アメリカではじまり、平成10年頃から日本でも取り組みが見られるようになった。ここでは地域の住民やボランティアと協力して公園の管理を進める。

国際交流協会

市民が主体となった幅広い分野における国際交流を進めるため、1987年（昭和62年）に設立された任意団体。国際都市をめざす本市の主要な市民国際交流団体として、市と密接に連携しながら、幅広い事業を実施している。

国際センター

新浦安駅前プラザマーレに、国際交流・協力の拠点として設置された施設。市内在住外国人の日常生活の支援、語学研修の場の提供、日本人市民と外国人市民の相互交流の場の提供、外国人市民や浦安市を訪れる外国人への情報提供などの機能を持つ。2006年（平成18年）4月にオープン。

さ行

在住外国人会

外国人居住者の増加にともない、親睦・相互扶助及び話し合いの場を提供したり、地域の中で日本人との積極的な交流を目的として、1986年（昭和61年）に設立された任意団体。市と密接に連携しながら講座や交流イベントなど、さまざまな事業を

実施している。

姉妹都市

親善と文化交流を目的として提携をした都市。浦安市は、浦安誕生100周年を記念して、1989年（平成元年）に、アメリカ合衆国フロリダ州のオーランド市と姉妹都市協定を締結した。

新町地域（新町）

日の出、明海、高洲地区の総称。

スローライフ

人生を豊かにすることを目的とした持続可能なライフスタイルのこと。スピードや効率・成果ばかりを重視するあわただしい生活や働き方・経済のあり方を見直そうという考えを実践すること。

た行

多文化共生社会

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会のこと。

時持ち

時間に余裕を持ち、仕事・家庭・自分のやりたいことをバランスよく実現すること。「金持ち」との対比で使われることもある。

は行

文化資源のネットワーク化

市内に点在する各種の文化財資料や伝統芸能などについて関連性を持たせて連携を図ること。

ま行

まちづくりワークショップ

まちづくりをテーマに集まる人々が共に参加し、調査活動、資源の発見、課題の設定、提案の作成、実現のための仕組みの検討などの協同作業を行う集まりのこと。

緑の基本計画

都市緑地法第4条第1項の規定に基づく法定計画であり、都市の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画。市が中長期的な観点に立って市民と共に策定する。2005年（平成17年）4月制定。

元町地域（元町）

当代島、北栄、猫実、堀江、富士見地区の総称。

や行

融合文化

伝統的文化や地域文化をさらに高め、育成しながら、異なった価値観を尊重し合い交流することで生まれる新しい文化のこと。

ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無に関わらず、誰にでも使いやすい形に設計すること。

ら行

ライフスタイル

生活様式。衣食住だけでなく、交際や娯楽なども含む暮らしぶりをさす。さらに、生活に対する考え方や習慣などの意味で使われることもある。

LOHAS

Lifestyles of Health and Sustainabilityの頭文字をとった略語。人間の健康と環境の保護を最優先し、持続可能な社会のあり方を追及する生活様式のこと。



浦安市